

【表紙】

【提出書類】 半期報告書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 令和３年12月17日

【計算期間】 第９期中（自 令和３年３月20日 至 令和３年９月19日）

【ファンド名】 マルチ・ストラテジーズ・ファンド - トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド
(Multi Strategies Fund - Turkish Lira Money Market Fund)

【発行者名】 インターナショナル・マネジメント・サービスズ・リミテッド
(International Management Services Ltd.)

【代表者の役職氏名】 取締役 ギャリー・バトラー
(Gary Butler, Director)

【本店の所在の場所】 ケイマン諸島、KY1 - 1102、グランド・ケイマン、ジョージ・タウン、ハーバー・センター、私書箱61号
(P.O.Box 61, Harbour Centre, George Town, Grand Cayman, KY1-1102, Cayman Islands)

【代理人の氏名又は名称】 辯護士 三 浦 健

【代理人の住所又は所在地】 東京都千代田区丸の内二丁目６番１号 丸の内パークビルディング
森・濱田松本法律事務所

【事務連絡者氏名】 辯護士 三 浦 健
同 下 瀬 伸 彦
同 白 川 剛 士

【連絡場所】 東京都千代田区丸の内二丁目６番１号 丸の内パークビルディング
森・濱田松本法律事務所

【電話番号】 03（6212）8316

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

1 【ファンドの運用状況】

インターナショナル・マネジメント・サービスズ・リミテッド（International Management Services Ltd.）（以下「管理会社」といいます。）が管理するマルチ・ストラテジーズ・ファンド（Multi Strategies Fund）（以下「トラスト」といいます。）のサブ・ファンドであるトルコリラ・マネー・マーケット・ファンド（Turkish Lira Money Market Fund）（以下「サブ・ファンド」といいます。）の運用状況は以下のとおりです。

(1) 【投資状況】

資産別および地域別の投資状況

（2021年10月末日現在）

資産の種類	国名・地域名	時価合計 (トルコリラ)	投資比率 (%)
社債	トルコ	391,829,042.16	40.45
リバース・レボ取引	マルタ	328,000,000.00	33.86
国債	トルコ	164,143,611.40	16.94
預金	マルタ	82,489,272.67	8.52
小 計		966,461,926.23	99.77
現金・その他の資産（負債控除後）		2,224,685.98	0.23
合計（純資産総額）		968,686,612.21 (約11,547百万円)	100.00

（注1）投資比率とは、サブ・ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。以下同じです。

（注2）トルコリラの円貨換算は、特に記載がない限り、便宜上、2021年10月29日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1トルコリラ＝11.92円）によります。以下、トルコリラの円金額表示はすべてこれによります。

（注3）サブ・ファンドは、ケイマン諸島の法律に基づいて設立されていますが、サブ・ファンドおよび受益証券は、トルコリラ建てのため以下の金額表示は別段の記載がない限りトルコリラをもって行います。

（注4）本書の中で金額および比率を表示する場合、四捨五入している場合があります。したがって、合計の数字が一致しない場合があります。また、円貨への換算は、本書の中でそれに対応する数字につき所定の換算率で単純計算の上、必要な場合四捨五入してあります。したがって、本書中の同一情報につき異なった円貨表示がなされている場合もあります。

(2) 【運用実績】

【純資産の推移】

2021年10月末日までの1年間における各月末の純資産の推移は以下のとおりです。

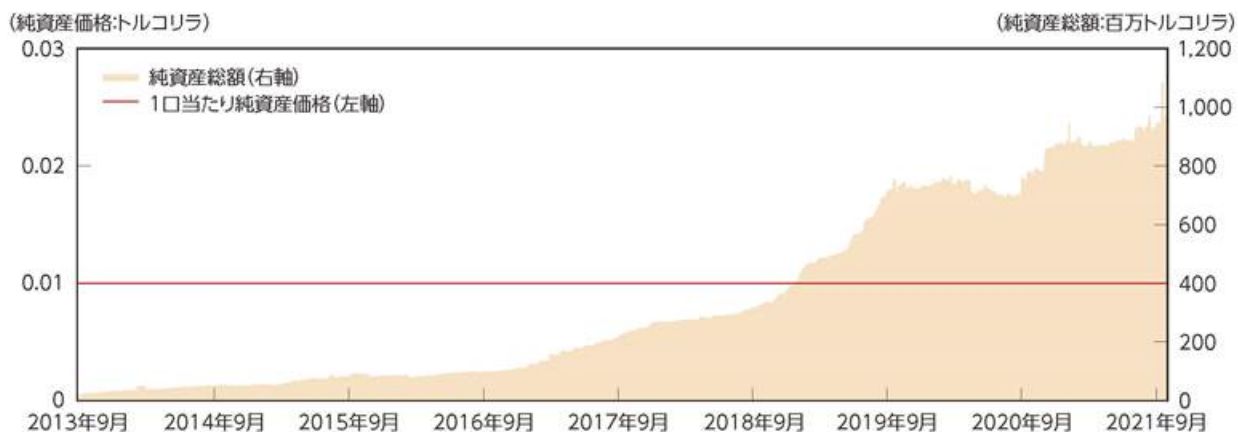
	純資産総額		1口当たり純資産価格	
	トルコリラ	千円	トルコリラ	円
2020年11月末日	803,688,295.68	9,579,964	0.01	0.1192
12月末日	873,522,074.89	10,412,383	0.01	0.1192
2021年1月末日	881,367,821.97	10,505,904	0.01	0.1192
2月末日	885,237,316.75	10,552,029	0.01	0.1192
3月末日	877,483,340.75	10,459,601	0.01	0.1192
4月末日	872,335,643.86	10,398,241	0.01	0.1192
5月末日	879,784,289.19	10,487,029	0.01	0.1192

6月末日	893,228,099.54	10,647,279	0.01	0.1192
7月末日	889,123,219.94	10,598,349	0.01	0.1192
8月末日	923,385,245.59	11,006,752	0.01	0.1192
9月末日	937,213,839.93	11,171,589	0.01	0.1192
10月末日	968,686,612.21	11,546,744	0.01	0.1192

<参考情報>

純資産総額および1口当りの純資産価格の推移

(2013年9月24日～2021年10月末日)



【分配の推移】

2021年10月末日までの1年間の1口当たりの分配の額は以下のとおりです。

計算期間	1口当たり分配金	
	トルコリラ	円
2020年11月1日～2021年10月末日	0.001433579	0.017088262

<参考情報>

分配の推移

(単位:トルコリラ、1口当たり課税前)

第4会計年度 (2016年3月20日～2017年3月19日)	0.000796358
第5会計年度 (2017年3月20日～2018年3月19日)	0.001067952
第6会計年度 (2018年3月20日～2019年3月19日)	0.001729305
第7会計年度 (2019年3月20日～2020年3月19日)	0.001553185
第8会計年度 (2020年3月20日～2021年3月19日)	0.000921065
直近1年間累計 (2020年11月1日～2021年10月末日)	0.001433579
設定来累計 (2013年9月24日～2021年10月末日)	0.008737392

【収益率の推移】

2021年10月末日までの1年間の収益率は以下のとおりです。

計算期間	収益率
2020年11月1日～2021年10月末日	14.34%

(注) 収益率(%) = $100 \times (a - b) / b$

a = 上記期間末の1口当たり純資産価格（当該期間中の分配金の合計額を加えた額）

b = 当該期間の直前の日の1口当たり純資産価格（分配落ちの額）

<参考情報>

年間の収益率の推移



(注1) 各暦年の収益率は、日々のリターン（分配金／（前日の純資産総額+0.01×前日からの発行済口数の増減））を計算し、設定日（2013年9月24日）を10,000としたパフォーマンスインデックスを複利計算で算出、当該パフォーマンスインデックスに基づき計算しています。

(注2) 2013年は9月24日から12月末日までの収益率です。
2021年は1月1日から10月末日までの収益率です。

(注3) サブ・ファンドにベンチマークはありません。

2 【販売及び買戻しの実績】

2021年10月末日までの1年間における販売および買戻しの実績ならびに2021年10月末日現在の発行済口数は以下のとおりです。

計算期間	販売口数	買戻口数	発行済口数
2020年11月1日～2021年10月末日	112,166,105,742 (112,159,473,748)	93,630,074,590 (93,630,074,590)	96,729,795,077 (96,679,441,293)

(注) () 内の数は本邦内における販売・買戻しおよび発行済口数です。

3 【ファンドの経理状況】

- a . ファンドの日本語の中間財務書類は、米国において一般に公正妥当と認められた会計原則に準拠して作成された原文（英文）の中間財務書類を翻訳したものです。これは「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」第76条第4項ただし書の規定の適用によるものです。
- b . ファンドの原文の中間財務書類は、外国監査法人等（公認会計士法（昭和23年法律第103号）第1条の3第7項に規定する外国監査法人等をいいます。）の監査を受けていません。
- c . ファンドの原文の中間財務書類は、トルコリラで表示されています。日本語の中間財務書類には、主要な金額について円貨換算が併記されています。日本円による金額は、2021年10月29日現在における株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1トルコリラ＝11.92円）で換算されています。日本円に換算された金額は、四捨五入のため合計欄の数値が総数と一致しない場合があります。

(1) 【資産及び負債の状況】

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド

貸借対照表

2021年 9 月19日

		2021年	
	注記	トルコリラ	日本円
資産			
公正価値により測定される負債証券への投資 (取得原価：649,750,168トルコリラ)	3	670,971,369	7,997,978,718
現金及び現金同等物	6	84,285,492	1,004,683,065
レポ取引による債権	9、10	171,000,000	2,038,320,000
ファンドの販売受益証券に対する未収金		1,397,214	16,654,791
未収利息		12,388,782	147,674,281
資産合計		940,042,857	11,205,310,855
負債			
ファンドの買戻受益証券に対する未払金		2,448,979	29,191,830
未払分配金		8,705,401	103,768,380
その他の未払金	8	2,467,651	29,414,400
負債合計		13,622,031	162,374,610
純資産	11	926,420,826	11,042,936,246
1口当たり純資産価額(「NAV」) (期末における口数残高92,642,078,614口に 基づく)	5、11	0.01	0.12

添付の注記と明細表は本財務諸表の不可分の一部である。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド

損益計算書

2021年 9 月19日に終了する 6 ヶ月間

注記	2021年	
	トルコリラ	日本円

投資収益

受取利息		42,264,657	503,794,711
取得時のディスカウント分のアキュムレーション		36,260,253	432,222,216
投資収益合計		78,524,910	936,016,927

費用

投資運用報酬	7、8	1,348,763	16,077,255
副投資運用報酬	7、8	2,472,732	29,474,965
販売報酬及び代行協会員報酬	8	2,023,359	24,118,439
管理報酬	7、8	112,397	1,339,772
管理事務代行報酬	8	459,404	5,476,096
保管報酬	8	540,089	6,437,861
受託報酬	7、8	179,835	2,143,633
監査報酬		124,236	1,480,893
その他の報酬および費用		615,303	7,334,412
費用合計		7,876,118	93,883,327

純投資収益		70,648,792	842,133,601
--------------	--	-------------------	--------------------

投資に係る実現純利益		601	7,164
------------	--	-----	-------

運用による純資産の純増額		70,649,393	842,140,765
---------------------	--	-------------------	--------------------

添付の注記と明細表は本財務諸表の不可分の一部である。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド**純資産変動計算書**

2021年9月19日に終了する6ヶ月間

	2021年	
	トルコリラ	日本円
期首純資産	870,720,973	10,378,993,998
運用による純資産の純増額	70,649,393	842,140,765

受益者への分配金	(70,649,377)	(842,140,574)
受益証券の発行(38,942,599,350口)	389,425,994	4,641,957,848
受益証券の買戻(33,372,615,670口)	(333,726,157)	(3,978,015,791)
期末純資産	926,420,826	11,042,936,246

添付の注記と明細表は本財務諸表の不可分の一部である。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド

キャッシュ・フロー計算書

2021年9月19日に終了する6ヶ月間

		2021年	
	注記	トルコリラ	日本円
営業活動によるキャッシュ・フロー			
運用による純資産の純増額		70,649,393	842,140,765
運用による純資産の純増額から営業活動による現金及び現金同等物の変動(純額)への調整			
負債証券の購入		(767,861,177)	(9,152,905,230)
レポ取引における負債証券の買戻しによる支出		(27,170,000,000)	(323,866,400,000)
負債証券の売却		618,070,112	7,367,395,735
レポ取引における負債証券の売却による収入		27,236,000,000	324,653,120,000
投資に係る実現純利益		(601)	(7,164)
未収利息の増加額		(1,830,959)	(21,825,031)
その他の未払金の増加額		685,174	8,167,274
営業活動による現金及び現金同等物の変動(純額)		(14,288,058)	(170,313,651)
財務活動によるキャッシュ・フロー			
受益証券発行による収入	5	342,027,638	4,076,969,445
受益証券買戻による支出	5	(335,968,022)	(4,004,738,822)
支払分配金	5	(14,992,104)	(178,705,880)
財務活動による現金及び現金同等物の変動(純額)		(8,932,488)	(106,475,257)
現金及び現金同等物の純減額		(23,220,546)	(276,788,908)

現金及び現金同等物の期首残高	107,506,038	1,281,471,973
現金及び現金同等物の期末残高	84,285,492	1,004,683,065

補足情報：

受取利息	40,433,698	481,969,680
------	------------	-------------

添付の注記と明細表は本財務諸表の不可分の一部である。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド**財務状況の指標**

2021年9月19日に終了する6ヶ月間

	2021年	
	トルコリラ	日本円
受益証券1口当たり運用成績：		
期首における受益証券1口当たりNAV	0.01	0.12
投資活動による収益(B)		
純投資収益	0.0008	0.01
投資活動による収益合計	0.0008	0.01
分配金控除	(0.0008)	(0.01)
期末における受益証券1口当たりNAV	0.01	0.12
比率／補足データ：		
平均純資産総額に対する費用比率(A)	(0.89)%	
平均純資産総額に対する純投資収益比率(A)	7.94%	
総収益(A)	7.94%	

(A) 総収益は、当中間計算期間のNAVの変動に基づいて計算される。このリターンには分配金額に関連するリターンが含まれる。費用比率および純投資収益比率は当中間計算期間の平均純資産残高に基づいて計算される。財務状況の指標は、全ての投資関連費用および運用費用を反映したものである。

(B)特定の投資、手数料の取決めおよび資本取引のタイミングにより結果は異なる。受益証券1口当たりの情報については、当中間計算期間の月平均受益証券口数残高に基づいて計算される。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド

財務諸表に対する注記

2021年9月19日

1. トラストに関する説明

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド(以下「当シリーズ・トラスト」という。)は、マルチストラテジーズ・ファンド(以下「当トラスト」という。)のシリーズ・トラストである。当トラストは、受託会社と管理会社との間で締結された2013年6月10日付基本信託証書に基づき設定されたオープン・エンドのアンブレラ型ユニット・トラストである。当トラストは2013年6月18日に、ケイマン諸島の信託法に準拠しアンブレラ型ユニット・トラストとして設定され、ケイマン諸島のミューチュアル・ファンド法に基づき登録された。関連する資産や負債が帰属する個別のポートフォリオやシリーズ・トラストを組成および設定することができる。基本信託証書はケイマン諸島法に準拠している。

2021年9月19日現在、2013年9月24日に運用を開始した当シリーズ・トラストを含む2つのシリーズ・トラストが存在していた。もう1つのシリーズ・トラストは個別の監査済み財務諸表を作成している。この財務諸表は当シリーズ・トラストの口座だけで構成されている。

当シリーズ・トラストの投資目的は、国債、社債、譲渡性預金証書、資産担保証券、銀行預金ならびにレポ取引及びリバースレポ取引(ただし、これらに限定されない)のトルコリラ建て短期金融商品への投資を通じて、収益を提供しつつ、元本価値を確保し、高水準の流動性を維持することである。

インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド(以下「管理会社」という。)は管理会社である。SOMPOアセットマネジメント株式会社(以下「投資運用会社」という。)は投資運用会社である。アク・ポルトフェイ・イエネティミ・アノニム・シルケティ(以下「副投資運用会社」という。)は副投資運用会社である。三井住友信託銀行株式会社ロンドン支店(以下「保管会社」という。)は保管会社である。当シリーズ・トラストの管理事務業務は、エスエムティー・ファンド・サービスーズ(アイルランド)リミテッド(以下「管理事務代行会社」という。)に委託されている。

2. 重要な会計方針の要約

本財務諸表は、米国において一般に公正妥当と認められる会計基準(以下「米国GAAP」という。)に準拠して作成されている。米国GAAPに準拠した財務諸表の作成において、管理会社は、財務諸表で報告される金額および開示に影響を与える見積もりや仮定をする必要がある。実際の結果は、それらの見積もりとは異なる場合がある。

本財務諸表は、当シリーズ・トラストの機能通貨であるトルコリラ(以下「TRY」という。)建てで作成されている。

当シリーズ・トラストは米国GAAPの下で投資会社と見なされており、財務会計基準審議会(以下「FASB」という。)の会計基準コーディフィケーション(以下「ASC」という。)トピック946「金融サービス-投資会社」において投資会社に適用できる会計ガイダンス及び報告ガイダンスに従っている。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド**財務諸表に対する注記**

2021年9月19日

(続き)

2. 重要な会計方針の要約(続き)

投資運用会社の見解では、以下の状況が存在するため、当シリーズ・トラストは、投資会社の基本的な特性を有している。

当シリーズ・トラストは投資家から資金を集め、それらの投資家に投資管理サービスを提供している。

投資家に通知された事業目的および唯一の実質的な活動は、投資によるキャピタルゲインやインカムゲインによるリターンのためだけに投資することである。

当シリーズ・トラストは、投資によるキャピタルゲインによるリターンのために当シリーズ・トラストが保有する投資に対する出口戦略を特定している。

当シリーズ・トラストは、投資によるキャピタルゲインおよびインカムゲイン以外に成果または便益を得る目的を有していない。

投資運用会社の見解では、当シリーズ・トラストは、投資会社の典型的な特徴も有している。

当シリーズ・トラストは、複数の投資を保有している。

当シリーズ・トラストには、複数の投資家が資金を提供している。

当シリーズ・トラストには、当シリーズ・トラストに大きな関心を示し、投資運用会社に関連のない投資家がいる。

当シリーズ・トラストのオーナーシップは、出資を通じて取得された株式持分により表される。

当シリーズ・トラストは、公正価値ベースで投資のパフォーマンスを管理・評価している。

見積りの利用

米国G A A Pに準拠して財務諸表を作成するためには、経営者は、注記3に記載されている投資の公正価値を含む資産および負債の報告金額を決定する上で、重要な会計上の見積りや判断を行う必要がある。実際の結果がこれらの見積りと異なる場合もある。

投資の評価

投資は社債、国債、預金およびレポ取引から成る。償還までの残余期間が1年未満の社債および国債といった債券は、公正価値のもっとも妥当な見積もりとして、償却原価法(例えば、取得価額が額面より高い場合におけるプレミアム分のアモチゼーション、または取得価額が額面より低い場合におけるディスカウント分のアキュムレーションにより取得価額を調整する。)を用いて、公正価値で評価される。管理会社は、投資がそれらの公正市場価格で計上されることを担保するために、同社の代理人を通じて償却原価法を継続的にレビューする。当シリーズ・トラストが金融資産を購入すると同時に将来の期日に一定の価格で同資産を売却す契約を締結する(「レポ取引」)場合、その契約は債権(「レポ取引による債権」)勘定に計上され、原資産は当シリーズ・トラストの財務諸表上において認識されない。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド**財務諸表に対する注記**

2021年9月19日

(続き)

2. 重要な会計方針の要約(続き)**投資の評価(続き)**

当シリーズ・トラストが金融資産を売却すると同時に、将来において一定の価格で同資産を買戻す契約を締結する場合、この契約は借入金（レポ取引の下での債務）勘定に計上され、当シリーズ・トラストの財務諸表において原資産の消滅の認識は行われない。レポ取引による債権および債務は、増分の直接取引費用控除後の公正価値で当初測定され、その後は実効金利法を用いて償却原価で測定される。

投資取引は取引日基準で計上される。中間計算期間末については、2021年9月19日が営業日ではないため、当トラストの目論見書に対する当シリーズ・トラストの付属書に従い、全ての投資は2021年9月17日現在で評価されている。

実現損益、および未実現損益の変動額は、先入先出法によって決定され、損益計算書に計上される。公正価値の変動額は評価日ごとに損益に計上される。

現金及び現金同等物

現金及び現金同等物には、購入日から90日以内に容易に一定の金額に換金可能であるマネー・マーケット・ファンドなど流動性の高い投資が含まれる。全ての現金残高は、主要な銀行及び証券会社で保管されている。

現金およびその他の流動性の高い資産については、適切な場合には、該当日末までの未収利息を加えた額面価額で評価される。

当シリーズ・トラストは当中間計算期間末または中間計算期間中において、いかなる「制限付き現金」も保有していなかった。

投資収益

受取利息は実効金利法によって計算される。有価証券の取得価額が額面より低い場合におけるディスカウント額、および取得価額が額面より高い場合におけるプレミアム額については、それぞれの有価証券の償還までの期間にわたり実効金利法によりアモチゼーションまたはアキュムレーション処理が行われる。

費用

費用は発生主義で計上される。

外国為替換算

外貨建の資産および負債は、2021年9月19日が営業日ではないため、2021年9月17日の最終為替相場でトルコリラに換算され、為替差損益は損益計算書に反映される。有価証券の売買や収益および費用は、それらの各取引日の実勢為替レートで換算される。未実現損益は、投資有価証券の公正価値と取得原価との差額である。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド

財務諸表に対する注記

2021年9月19日

（続き）

2. 重要な会計方針の要約(続き)

外国為替換算(続き)

当シリーズ・トラストでは、有価証券について市場価格の変動による損益部分と外国為替レートの変動によって発生する損益部分を分離していない。かかる変動については、損益計算書において投資に係る実現純利益に含まれている。

レポ取引による債権

レボ取引に係わる取引は、有担保の金融取引として取り扱われ、契約された再売買金額で計上される。取引による利息は貸借対照表の未収利息に含まれる。

資産と負債の相殺

当シリーズ・トラストは、財務諸表の利用者が、財政状態において認識された資産および負債に関するネッティング協定の影響または潜在的影響を評価できるように、貸借対照表に表示される資産と負債の相殺による影響を開示することが求められる。これら認識された資産および負債は、強制力のあるマスター・ネッティング協定または類似の契約の対象となっているか、あるいは相殺権に関する次の基準を満たす金融商品及びデリバティブ商品である。その基準とは、1)当シリーズ・トラストが別の当事者に支払うべき金額が確定していること、2)当シリーズ・トラストが、その支払うべき金額とその他の当事者が支払うべき金額とを相殺する権利を有していること、3)当シリーズ・トラストが相殺する意図を有すること、4)当シリーズ・トラストの相殺権に法的強制力があること。

税制

当シリーズ・トラストはケイマン諸島の免税信託である。ケイマン諸島の現行法の下では、収益、不動産、譲渡、売却、あるいはその他に対して当シリーズ・トラストが支払うべき税金は存在しない。当シリーズ・トラストの自己勘定のために売買する株式および有価証券に係わる収益については、一般的に米国の課税対象にならない(ただし、以下に示された特定の源泉徴収税を除く。)。投資運用会社は、当シリーズ・トラストの活動が米国での取引や事業に該当しないように、実行可能な最大限の範囲において当シリーズ・トラストの運用を行う方針である。米国以外のソースから当シリーズ・トラストが実現した利息やその他の収益、および米国以外の発行体の有価証券売却で実現したキャピタルゲインは、収益の源泉となった税管轄地において源泉徴収税やその他の税金が課せられる可能性がある。信託法(2011年改正)に従って、当トラストは、トラストの設定から50年の期間にわたり全ての現地での課税について免税措置を受けている。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド

財務諸表に対する注記

2021年9月19日

(続き)

2. 重要な会計方針の要約(続き)

税制(続き)

当シリーズ・トラストの財務諸表に計上する法人所得税の未確定事項の会計処理は、ASC 740号の「法人所得税における未確定事項に係る会計処理」によって明らかにされている。ASC 740号は、納税申告書に記載されるか、または記載されると予想されるタックス・ポジションの財務諸表上の認識および測定のために、認識の基準や測定の指針を規定する。ASC 740号は、タックス・ポジションについて、税務調査で容認される可能性が50%超の可能性であるか否かを会計主体が判断することを求めている。それには、同タックス・ポジションのテクニカル・メリットに基づき、関連するあらゆる申立てまたは訴訟プロセスの解決も含まれる。企業は、タックス・ポジションが50%超の可能性の判断基準を満たしていたか否かを評価する際に、全ての関連情報を十分に有している適切な税務当局により同タックス・ポジションが調査されることを前提とする必要がある。50%超の可能性の判断基準を満たしているタックス・ポジションは、タックス・ベネフィットの額を判断するために測定され、財務諸表上で認識される。このタックス・ポジションの測定は、50%超の確率で確定する金額のうち最大値をもってなされる。

投資運用会社は当シリーズ・トラストのタックス・ポジションを分析し、未確定のタックス・ポジションに関して、未認識のタックス・ベネフィットに対して計上されるべき負債はないと判断した。さらに、投資運用会社は、未認識のタックス・ベネフィットの総額が今後12ヶ月間に、大幅に変動する合理的な可能性のあるタックス・ポジションが存在するとは認識していない。

保証および／または補償

通常の事業活動の中で、当シリーズ・トラストは一般的な補償を提供する様々な条項を含む契約を締結する。これによって、現在はまだ発生していないが、将来、当シリーズ・トラストに対して何らかの請求が起こされる可能性があり、これらの契約に伴う当シリーズ・トラストの最大エクスポージャーは不明である。ただし、経験に基づく、当シリーズ・トラストは損失を被るリスクはごく僅かであると予想する。

分配方針

管理会社は各取引日に代理人を通じて分配金を公表する。受益証券1口当たりの分配金額は、各取引日における当該受益証券1口当たりの純資産価額を0.01トルコリラに維持するために必要な金額の合計に等しい。未払分配金は、公表された時に純資産変動計算書において認識される。

買戻しの分類

A S C 480号の「負債と資本の双方の特性を有する特定の金融商品の会計処理」の規定では、買戻通知で要求される金額が確定した時点で、買戻しを負債として認識する。この認識日は通常、買戻要求の性質によって、買戻通知の受領時または中間計算期間の末日のいずれかになる。したがって、中間計算期間末後に支払われるが、計算期間末の資本残高に基づく買戻しは、2021年9月19日時点でファンドの買戻受益証券に対する未払解約金として反映される。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド

財務諸表に対する注記

2021年9月19日

(続き)

3. 公正価値の測定

金融商品は公正価値で計上される。公正価値は、測定日時点における市場参加者間の秩序ある取引において資産の売却によって受け取られる、または負債の移転(出口価格)のために支払われる価格として定義される。

インプットの公正価値ヒエラルキーは、入手可能な場合には観測可能なインプットのほとんどが使用されることを要求することにより、観測可能なインプットの使用を最大化し、観測不能なインプットの使用を最小化するような公正価値を測定する上で使用される。観測可能なインプットとは、当シリーズ・トラストとは無関係の情報源から得られる市場データに基づき、市場参加者が資産または負債を値付けする際に使用するインプットである。観測不能なインプットは、市場参加者が資産または負債を値付けする際に使用するであろうインプットに対する当シリーズ・トラストの仮定を反映したものであり、この仮定は入手可能な最良の情報に基づいている。

公正価値ヒエラルキーは、インプットに基づき以下の3つの水準に分類される。

- レベル1 - 当シリーズ・トラストが測定日にアクセス可能な、同一の資産または負債の活発な市場における調整なしの相場価格を反映するインプット；
- レベル2 - 活発とは見なされない市場におけるインプットなど、資産または負債に関して直接的または間接的に観測可能な相場価格以外のインプット；
- レベル3 - 観測不能なインプット。

インプットは様々な評価手法適用に際して利用されるものであり、リスクに関する仮定を含め、評価を決定するにあたり市場参加者が用いる仮定を広く示している。金融商品の公正価値ヒエラルキーのレベルは、公正価値測定に対して重要であるインプットのうち最も低いレベルのインプットに基づいて決定される。管理会社は観測可能なデータを、容易に利用可能であり、定期的に配布または更新され、信頼でき検証可能であり、独占されていない、かつ活発な関連市場に積極的に関与している独立した情報源によって提供される市場データであると見なす。ヒエラルキー内の金融商品の分類は、金

融商品の価格設定における透明性に基づいており、管理会社が認識している金融商品のリスクと必ずしも一致しない。

その価値が活発な市場における相場価格に基づいている投資は、レベル1に分類される。2021年9月19日現在、シリーズ・トラストはレベル1に分類される投資を保有していなかった。

活発とは見なされない市場で取引されているが、相場価格、ディーラーの気配値、あるいは観測可能なインプットにより支持されるそれに代わるプライシング・ソースなどに基づき評価される投資は、レベル2に分類される。レベル2の投資には、活発な市場で取引されず、および(または)譲渡制限を受けるポジションが含まれるため、非流動性および(または)非譲渡性を反映するために調整されることもある。非流動性や非譲渡性については通常、利用可能な市場情報に基づいている。負債証券は償却原価法を用いて評価されており、レベル2に分類される。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド

財務諸表に対する注記

2021年9月19日

(続き)

3. 公正価値の測定(続き)

レベル3に分類される投資は、取引が稀であるか、または全く取引がないため、著しく観測不能なインプットしか有していない。2021年9月19日現在、シリーズ・トラストはレベル3に分類される投資を保有していなかった。

以下の表は、公正価値で測定される当シリーズ・トラストの投資について、2021年9月19日現在の公正価値ヒエラルキー内のレベルごとの評価を示す：

	レベル1 トルコリラ	レベル2 トルコリラ	レベル3 トルコリラ	合計 トルコリラ
資産				
負債証券	-	670,971,369	-	670,971,369
レボ取引による債権	-	171,000,000	-	171,000,000
	-	841,971,369	-	841,971,369

全ての有価証券がレベル2に分類されている。当中間計算期間において、レベル間の資産の移動はなかった。

レボ取引は、カウンターパーティからの証券の購入とともに、当シリーズ・トラストが当該カウンターパーティに契約した価格で満期日に証券を売戻す義務を含む。当シリーズ・トラストの方針によると、このレボ取引に関しては、当シリーズ・トラストに代わって行動する保管会社がその担保証券の所有権を取得する。その担保証券の公正価値は、常にレボ取引の元本金額(未収利息を含めた金額)の少なくとも110%となる。カウンターパーティがレボ取引の下で債務不履行に陥るとともに担保の公正価値が減少した場合、当シリーズ・トラストによる担保の回収が遅れるかまたは制限される場合がある。

2021年9月19日現在、当シリーズ・トラストは国債で構成される担保を受領しており、同レボ取引に対する担保の公正価値は190,475,521トルコリラであった。当シリーズ・トラストは、このレボ取引に関連して受領した担保を売却または再担保差入することを許可されていない。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド**財務諸表に対する注記**

2021年9月19日

(続き)

4. 金融商品および関連リスク

以下に当シリーズ・トラストの金融商品から生じる主なリスクの概要を示す。

市場リスク

2021年9月19日現在の貸借対照表には、当シリーズ・トラストにより保有される負債証券およびレボ取引から生じる契約上のコミットメントの公正価値が含まれている。これらの投資には、市場リスクへのエクスポージャーが含まれている。

当シリーズ・トラストの金融商品の評価額は、金利または為替変動以外の要因による市場価格の変動に伴い変動する。

当中間計算期間において、新型コロナウイルスのパンデミックが世界中に広がり続けた。これにより、世界中の金融市場、経済及び社会に非常に大きな混乱が生じており、企業活動及び経済活動が大幅に縮小している。こうした混乱を受け、多くの金融商品の価値が著しく減少する可能性があり、当シリーズ・トラストが保有する金融商品も例外ではない。ただし、これによる当シリーズ・トラストへの最終的な影響を現時点で推定することは不可能であり、投資対象の換価の際に初めて確定することになる。

金利リスク

金利の上昇により、一般的に当シリーズ・トラストの将来収益の現在価値が低下する。有価証券の市場価格は、将来収益に対する投資家全体の見通しに基づいて絶えず変動するので、投資家が金利上昇を予想するか、または経験した時に、有価証券の価格は通常下落する。

流動性リスク

流動性リスクは、高ボラティリティや金融ストレスが存在する時期に、当シリーズ・トラストがその投資ポジションの規模を妥当な価格で迅速に調整することができない可能性を示す。

当シリーズ・トラストの主な負債は、投資家が売却したいと考える可能性のある受益証券の買戻しである。当シリーズ・トラストは、買戻し可能参加受益証券の現金による日々の買戻しリスクにさらされている。

当シリーズ・トラストの流動性は、組入れ有価証券の流動性に左右される。当シリーズ・トラストの資産は、主に容易に換金可能な有価証券で構成されている。管理会社の見解によると、このことにより、当シリーズ・トラストの負債の支払いや、全ての受益者の買戻し可能参加受益証券の買戻しが可能になる。

投資運用会社の見解によると、2021年9月19日時点で保有されている当シリーズ・トラストの資産の大部分は、通常の状況で1か月以内に現金化が可能である。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド**財務諸表に対する注記**

2021年9月19日

(続き)

4. 金融商品および関連リスク(続き)

為替リスク

当シリーズ・トラストの有価証券と現金及び現金同等物の全ては、当シリーズ・トラストの機能通貨建てであるため、貸借対照表および損益計算書は為替変動による影響を受けない。したがって、感応度分析は実施されていない。

信用リスク

信用リスクは、カウンターパーティが当シリーズ・トラストに対する債務を条件にしたがって履行できなくなった場合、当シリーズ・トラストが計上する可能性のある損失により測定される。当シリーズ・トラストは、取引の関係者の信用リスクにさらされるとともに、決済不履行のリスクも負う。特に当シリーズ・トラストは、ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・カンパニー（以下「B B H アンド・カンパニー」という。）（以下「副保管会社」という。）（フィッチによる信用格付けはA+）やアクバンク・マルタ支店（注記6）（フィッチによる信用格付けはA+）に係る信用リスクにさらされている（国内長期格付け）。

当シリーズ・トラストは負債証券に投資している。発行体の財政状態の悪化、または経済情勢の悪化、あるいはその両方、または予想外の金利の上昇などにより、発行体の元利金の支払能力が低下する可能性がある。発行体が期日に元利金支払ができなくなった場合、当シリーズ・トラストの口座で保有されている有価証券の価値に悪影響が及ぶ場合がある。流動性のある取引市場がない有価証券については、公正価値を当シリーズ・トラストの評価手法に従って確定することができなくなる可能性がある。さらに、新興国市場への投資に伴う信用リスクは、概して先進国への投資に比べ大きくなる傾向がある。

2021年9月19日現在、当シリーズ・トラストは以下の信用格付けを有する負債証券に投資している。

信用格付け

	トルコリラ	%
(T R) A + *	49,630,491	7.40
(T R) A A *	257,726,044	38.41
(T R) A A + *	274,076,202	40.85
(T R) A A A *	89,538,632	13.34
合計	670,971,369	100.00

* 国内長期格付け（フィッチ、S & P 及び S a h a）

レポ取引およびリバースレポ取引には、そのようなレポ取引またはリバースレポ取引の担保の評価の違いに関連したリスクが含まれる場合がある。そのような取引において受け取りまたは差し入れられた担保の価格が、当シリーズ・トラストに悪影響を及ぼす場合がある。関係するカウンターパーティが不履行に陥った場合、不正確な価格設定や、担保が取引される関連市場の非流動性および市場動向により、当シリーズ・トラストの投資パフォーマンスに大きな悪影響が及ぶ可能性がある。これらの影響の結果には（これらに限定されないが）、純資産額の急激な減少、現金回収の遅延、担保の現金化に伴う困難、さらにこれらの結果に関連する追加のリスクが含まれる。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド

財務諸表に対する注記

2021年9月19日

（続き）

4. 金融商品および関連リスク(続き)

信用リスク(続き)

受託会社は、保管会社を選任した。保管会社の最終的な親会社は三井住友トラスト・ホールディングス株式会社(株式会社日本格付研究所による信用格付けはA A-)である。保管会社は、副保管会社を選任した。現金および有価証券は、最終的に副保管会社にて保管され、現金は銀行である副保管会社に預けられている。

当シリーズ・トラストの有価証券は、分別された口座において副保管会社が保管する。したがって、副保管会社が支払不能あるいは破綻に陥った場合においても、当シリーズ・トラストの資産は分別されている。ただし、当シリーズ・トラストは、副保管会社の信用リスク、あるいは当シリーズ・トラストの現金に関して保管会社または副保管会社が利用する預託機関の信用リスクにさらされる。副保管会社が支払い不能または破綻に陥った場合、当シリーズ・トラストは当シリーズ・トラストの現金保有高に関して副保管会社の一般債権者として扱われることになる。

当シリーズ・トラストが取引を行ってきた適格有価証券の全ての格付けを掲載する投資ユニバースはメンテナンスされており、フィッチによる格付け変更を記録するために毎日監視される。格付けの変更は、すべて運用会社に報告される。

副保管会社が破たんした場合、または支払不能に陥った場合、同社が保管している当シリーズ・トラストの負債証券に対して権利行使する際に遅延または制限が生じる可能性がある。

5. 元本

当シリーズ・トラストは受益証券を発行及び買戻すことができるため、当シリーズ・トラストの元本は、当シリーズ・トラストへの購入及び買戻し請求によって変動する可能性がある。受益者一人当たりの最低購入又は買戻し額は1口であり、以降1口単位で計算される。

受益証券は、前評価日における営業終了時点の受益証券1口当たりNAVで各営業日に買戻し可能である。ただし、関連営業日の午前8時(ダブリンの時間)または投資運用会社が決定した期限までに買戻し通知を提出することを条件とする。期限までに買戻し通知が提出されなかった場合には、買戻し請求は次の取引日まで持ち越され、その取引日に適用される買戻し価格で買戻されることになる。

2021年9月19日を期末とする中間計算期間における受益証券の口数の異動は以下の通り：

	口数
期首における受益証券の口数残高	87,072,094,934
受益証券の発行口数	38,942,599,350
受益証券の買戻し口数	(33,372,615,670)
中間計算期間末における受益証券の口数残高	92,642,078,614

2021年9月19日を期末とする中間計算期間に、70,649,377トルコリラの分配金が宣言され、その内54,856,015トルコリラが当シリーズ・トラストに再投資された。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド

財務諸表に対する注記

2021年9月19日

(続き)

6. 現金および現金同等物

現金および現金同等物は2021年9月19日現在、以下の通り副保管会社で保管されている現金、及びアクバンク・マルタ支店で保管されている満期が3ヶ月以下の定期預金により構成されている：

トルコリラ	
現金 - B B H アンド・カンパニー	3,352,788
定期預金 - アクバンク・マルタ支店	80,932,704
<hr/>	
合計	84,285,492
<hr/>	

7. 関連当事者取引

一方の当事者が、他方の当事者を支配可能であるか、または、他の当事者の財務上および業務上の意思決定に対して重要な影響力を行使可能である場合、それらの当事者は関連していると見なされる。管理会社の意見によると通常の事業取引以外に関連当事者との取引は発生していない。管理会社、投資運用会社、副投資運用会社、受託会社、及びアクバンク T.A.S (レポ取引および預金のカウンターパーティであり、かつ当シリーズ・トラストにおいて49,119,205口の受益証券を保有している) は、当シリーズ・トラストの関連当事者と見なされる。当シリーズ・トラストはアクバンク・マルタ支店(注記6)に80,932,704トルコリラの預金を保有している。当中間計算期間に関連当事者に支払った報酬は、損益計算書および注記8に開示されている。当中間計算期間末に関連当事者に支払うべき未払金は貸借対照表および注記8に開示されている。

3名の投資家が、当シリーズ・トラストにそれぞれ21.01%、10.71%および10.42%の投資を行っている。その結果、これらの関連当事者による何らかの行為が、当シリーズ・トラストに重大な影響を与える可能性がある。

8. 報酬および費用

管理会社は、純資産総額に対して年率0.025%の報酬を当シリーズ・トラストの資産から受け取る。この報酬は、評価日ごとに計算の上、未払計上され、毎月米ドルにて後払いで支払われる。ただし、年間の管理報酬の下限を40,000トルコリラに定める。

受託会社は、純資産総額に対して年率0.04%の報酬を当シリーズ・トラストの資産から受け取る。この報酬は、評価日ごとに計算の上、未払計上され、毎月ユーロにて後払いで支払われる。ただし、年間の受託報酬の下限を43,000トルコリラに定める。

投資運用会社は、純資産総額に対して年率0.30%の報酬を当シリーズ・トラストの資産から受け取る。この報酬は、評価日ごとに計算の上、未払計上され、毎月日本円にて後払いで支払われる。

副投資運用会社は、純資産総額に対して年率0.55%の報酬を受け取る。この報酬は、評価日ごとに計算の上、未払計上され、毎月トルコリラにて後払いで支払われる。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド

財務諸表に対する注記

2021年9月19日

(続き)

8. 報酬および費用(続き)

管理事務代行会社は、純資産総額に対して年率0.08%の報酬を当シリーズ・トラストの資産から受け取る。この報酬は、評価日ごとに計算の上、未払計上され、毎月ユーロにて後払いで支払われる。ただし、毎月の管理事務代行報酬の下限を8,900トルコリラに定める。また、管理事務代行会社には、8,900トルコリラに相当するユーロでの監査補助報酬も支払われる。さらに、管理事務代行会社には、各新規受益者1人につき270トルコリラの手数料と、引受時に必要な登録の更新毎に45トルコリ

ラの手数料も支払わなければならない。また、管理事務代行会社は、その義務の履行において必要となる全ての妥当な立替支出に関して払い戻しを受ける。

保管会社は、純資産総額に対して年率0.12%の報酬を当シリーズ・トラストの資産から受け取る。この報酬は、評価日ごとに計算の上、未払計上され、毎月米ドルにて後払いで支払われる。ただし、毎月の保管報酬の下限を2,100トルコリラ相当額のUSドルに定める。また、保管会社は、その義務の履行において必要となる全ての妥当な立替支出に関して払い戻しを受ける。

販売会社は、純資産総額に対して年率0.35%の報酬を当シリーズ・トラストの資産から受け取る。この報酬は、評価日ごとに計算の上、未払計上され、毎月日本円にて後払いで支払われる。中間計算期間末時点で、当シリーズ・トラストには28の販売会社が存在していた。

代行協会員は、純資産総額に対して年率0.10%の報酬を当シリーズ・トラストの資産から受け取る。この報酬は、評価日ごとに計算の上、未払計上され、毎月日本円にて後払いで支払われる。

2021年9月19日時点における未払報酬は以下の通り：

	トルコリラ
投資運用報酬	162,435
副投資運用報酬	297,797
販売報酬及び代行協会員報酬	243,299
管理報酬	13,536
管理事務代行報酬	65,051
保管報酬	600,378
受託報酬	21,658
監査報酬	312,735
その他の報酬及び費用	750,762
	2,467,651

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド

財務諸表に対する注記

2021年9月19日

(続き)

9. レポ取引による債権

レポ取引とは、当シリーズ・トラストが合意した価格、期日および利息で将来有価証券を売戻すことを取り決めた契約に基づき有価証券を購入することである。レポ取引のカウンターパーティはデフォルトする可能性があり、レポ取引にはこうした信用リスクが伴う。2021年9月19日現在、売戻し条件付きで購入された有価証券171,000,000トルコリラは、主に国債やトルコ政府機関債により担保されている。

当シリーズ・トラストは、契約に基づく金額に対する担保の市場評価額を、経過利息も含め、契約期間の開始から終了までモニタリングしている。また、必要な場合には、エクスポージャーや流動性を管理するために、現金または有価証券の入れ替えを要求する。このような契約に関連して、カウンターパーティが債務不履行や破産手続き開始の状況に陥った場合は、当シリーズ・トラストに対する担保の換金または回収が遅延あるいは制限される場合がある。

2021年9月19日現在、売戻契約に基づき購入された有価証券は、2021年9月22日以前に満期となる。
 適用金利は18.27%である。

10. 資産と負債の相殺

2021年9月19日現在、当シリーズ・トラストは貸借対照表において相殺可能なレポ取引を保有している。当シリーズ・トラストは、このレポ取引による債権を担保と相殺することが可能である。

以下の表は、貸借対照表及び純資産変動計算書において示されている認識された資産の相殺による潜在的影響を開示している。

2021年9月19日			貸借対照表において相殺されない関連金額			
説明	認識された 資産の総額	貸借対照表に おいて相殺 された総額	貸借対照表に おいて示されて いる認識された 資産の純額	金融商品	金融担保の 受領額(a)	純額
	トルコリラ	トルコリラ	トルコリラ	トルコリラ	トルコリラ	トルコリラ
レポ取引 からの未収金	171,000,000	-	171,000,000	-	171,000,000	-
	171,000,000	-	171,000,000	-	171,000,000	-

- (a) 当シリーズ・トラストが定めるマスター・ネットティング契約および担保契約に係わる金額については、債務不履行の場合における法的強制力があるが、特定の他の要件は適用される相殺に係わる会計上のガイダンスを満たしていない。担保金額が貸借対照表に表示される金融資産と金融負債の純額を上回る場合、報告される合計額は、カウンターパーティに対する金融資産と金融負債の純額に限定される。

2021年9月19日現在、貸借対照表において、相殺の対象となるような認識された負債はない。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド

財務諸表に対する注記

2021年9月19日

(続き)

11. 取引純資産総額から財務諸表上の純資産総額への調整

	2021年 トルコリラ
公表純資産総額	927,472,591
取引日調整	(1,051,765)
財務諸表上の受益証券の保有者に帰属する純資産総額	926,420,826
公表純資産総額に基づく受益証券口数	92,747,255,172
取引日調整	(105,176,558)
財務諸表上の受益証券口数	92,642,078,614
受益証券1口当たり公表純資産価額	0.01
財務諸表上の受益証券1口当たり純資産価額	0.01

受益者の取引目的では、取引は取引日プラス1営業日をベースとして会計処理される。財務報告目的では、取引は取引日をベースとして会計処理される。最終取引日における営業終了時点と当中間計算期間末日の間に発生した取引に関して、(1,051,765)トルコリラの調整が必要であった。

12. 後発事象

管理会社は2021年9月19日から財務諸表の発行が可能となった2021年10月20日までの期間に対する後発事象のレビューを行なった。2021年10月20日までに、投資家から当シリーズ・トラストに197,749,554トルコリラの購入申込みがあった一方、当シリーズ・トラストから46,584,666トルコリラの買戻しが行われた。

管理会社は、これらの財務諸表において追加開示が必要なその他の後発事象はないとの結論を下した。

(2) 【投資有価証券明細表等】

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド

有価証券明細表 2021年9月19日現在

債券	取得原価 トルコリラ	公正価値 トルコリラ	純資産に対する 割合(%)
トルコ			
Ak Yatirim Menkul Deg As 0% 13-Oct-21	65,648,100	69,274,683	7.48
Akbank T.A.S 0% 07-Oct-21	47,241,000	49,630,491	5.36
Is Yatirim Menkul Degerl 0% 02-Dec-21	20,211,410	20,263,949	2.19
Qnb Finansbank As Turkey 0% 15-Oct-21	29,813,144	32,136,485	3.47
Qnb Finansbank As Turkey 0% 28-Jan-22	23,020,500	23,455,024	2.53
Turkey Ekonomi Bankasi 0% 22-Oct-21	72,803,250	73,863,750	7.97
Turkiye Garanti Bankasi 0% 02-Nov-21	52,880,850	53,871,621	5.82
Turkiye Vakiflar Bankasi 0 08-Oct-21	71,770,500	74,399,164	8.03
Turkey Government Bond 9.2% 22-Sep-21	207,628,772	215,000,000	23.20
Turkey Government Bond 13.8% 20-Oct-21	15,052,942	15,190,284	1.64
Turkey Government Bond 9.5% 12-Jan-22	43,679,700	43,885,918	4.74
公正価値により測定される負債証券への投資	649,750,168	670,971,369	72.43

レボ取引による債権

マルタ

TRT230222T13 22-Sep-21 18.27% AKM

171,000,000

171,000,000

18.46

レポ取引による債権合計

171,000,000

171,000,000

18.46

定期預金(3ヶ月未満)**マルタ**

FDTRY Akbank Malta 18% 22-Oct-21

80,932,704

80,932,704

8.74

定期預金(3ヶ月未満)合計

80,932,704

80,932,704

8.74

4 【管理会社の概況】

(1) 【資本金の額】

2021年10月末日現在、管理会社の発行済および払込済株式資本の額は、50,000米ドル(約568万3,500円)です。管理会社の発行済株式数は41,667株です。

（注）米ドルの円貨換算は、便宜上、2021年10月29日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1米ドル＝113.67円）によります。

(2) 【事業の内容及び営業の状況】

管理会社は、適式に設立され、有効に存続し、またケイマン諸島の銀行および信託会社法(改正済)の規定に基づき信託業務を行う免許を受けた信託会社です。管理会社は、ケイマン諸島のミューチュアル・ファンド法に基づくミューチュアル・ファンド管理者としての免許を受けており、またケイマン諸島の証券および投資業務法(改正済)のセクション5(4)および別紙4に基づく登録者として登録されています。

2021年10月末日現在、管理会社は、以下の投資信託の管理および運用を行っています。

国別(設立国)	種類別	本数	純資産額の合計
ケイマン諸島籍	オープン・エンド型契約型投資信託	4	239,986,744米ドル (約272億7,929万円)

（注）米ドルの円貨換算は、便宜上、2021年10月29日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1米ドル＝113.67円）によります。

(3) 【その他】

本書提出前6か月以内において、訴訟事件その他管理会社に重要な影響を及ぼした事実および重要な影響を及ぼすことが予想される事実はありません。

5 【管理会社の経理の概況】

- a . 管理会社の直近 2 事業年度の日本語の連結財務書類は、国際財務報告基準（IFRS）に準拠して作成された原文の連結財務書類を翻訳したものです。これは「特定有価証券の内容等の開示に関する内閣府令」に基づき、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」第131条第 5 項ただし書の規定の適用によるものです。
- b . 管理会社の原文の連結財務書類は、外国監査法人等（公認会計士法（昭和23年法律第103号）第 1 条の 3 第 7 項に規定する外国監査法人等をいいます。）であるグラントソントン ケイマン諸島から監査を受けており、別紙のとおり監査報告書を受領しています。これは「財務諸表等の監査証明に関する内閣府令」（昭和32年大蔵省令第12号）第 1 条の 2 の規定にもとづく監査証明に相当すると認められるため、日本の公認会計士または監査法人による監査は受けていません。
- c . 管理会社の原文の連結財務書類は米ドルで表示されています。日本語の連結財務書類には、円換算額が併記されています。日本円による金額は、2021年10月29日現在における株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1 米ドル = 113.67円）で換算されています。なお、千円未満の金額は四捨五入されています。

（１）【資産及び負債の状況】

インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド

連結財政状態計算書

2020年12月31日現在

	注記	2020年		2019年	
		(米ドル)	(千円)	(米ドル)	(千円)
資産の部					
流動資産					
現金および現金同等物		2,058,710	234,014	1,362,151	154,836
売掛金	4、6	600,748	68,287	914,653	103,969
その他未収金および前払費用		186,744	21,227	137,732	15,656
関連会社に対する債権	11	272,903	31,021	93,094	10,582
		3,119,105	354,549	2,507,630	285,042
非流動資産					
有形固定資産	7	268,248	30,492	292,561	33,255
使用权資産	9	756,361	85,976	334,905	38,069
		1,024,609	116,467	627,466	71,324
資産合計		4,143,714	471,016	3,135,096	356,366
負債および資本の部					
流動負債					
買掛金および未払費用		47,865	5,441	133,035	15,122
前受収入および顧客買掛金	6	747,805	85,003	709,440	80,642
リース債務	9	212,354	24,138	213,578	24,277
未払従業員賞与		690,915	78,536	490,217	55,723
未払配当金		1,246,579	141,699	811,251	92,215
		2,945,518	334,817	2,357,521	267,979
非流動負債					
リース債務	9	548,196	62,313	127,575	14,501
		548,196	62,313	127,575	14,501
資本					
株式資本	8	50,000	5,684	50,000	5,684
利益剰余金		600,000	68,202	600,000	68,202
		650,000	73,886	650,000	73,886
負債および資本合計		4,143,714	471,016	3,135,096	356,366

添付の連結財務諸表に対する注記を参照。

2021年3月25日に取締役会を代表して承認した。

取締役 署名

（２）【損益の状況】

インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド

連結包括利益計算書

2020年12月31日に終了した事業年度

	注記	2020年		2019年	
		(米ドル)	(千円)	(米ドル)	(千円)
収入					
収益	5	8,971,680	1,019,811	10,015,654	1,138,479
控除：不良債権	6	(66,854)	(7,599)	(126,731)	(14,406)
		8,904,826	1,012,212	9,888,923	1,124,074
その他収入		539,448	61,319	512,319	58,235
賃料収入		52,721	5,993	61,113	6,947
管理費	9、10	(6,747,334)	(766,969)	(7,017,990)	(797,735)
営業活動による損益		2,749,661	312,554	3,444,365	391,521
当期純利益		2,749,661	312,554	3,444,365	391,521

添付の連結財務諸表に対する注記を参照。

インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド

連結株主資本等変動計算書

2020年12月31日に終了した事業年度

	株式資本		利益剰余金		合計	
	(米ドル)	(千円)	(米ドル)	(千円)	(米ドル)	(千円)
2018年12月31日現在	50,000	5,684	600,000	68,202	650,000	73,886
当期純利益	-	-	3,444,365	391,521	3,444,365	391,521
公表配当額	-	-	(3,442,362)	(391,293)	(3,442,362)	(391,293)
2019年12月31日現在	50,000	5,684	600,000	68,202	650,000	73,886
当期純利益	-	-	2,749,661	312,554	2,749,661	312,554
公表配当額	-	-	(2,749,661)	(312,554)	(2,749,661)	(312,554)

2020年12月31日現在	50,000	5,684	600,000	68,202	650,000	73,886
---------------	--------	-------	---------	--------	---------	--------

添付の連結財務諸表に対する注記を参照。

（訳注）原文では（3,442,362）と記載されているが、正しくは（3,444,365）である旨の確認が取れている。

インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド

連結キャッシュフロー計算書

2020年12月31日に終了した事業年度

	2020年		2019年	
	（米ドル）	（千円）	（米ドル）	（千円）
営業活動				
当期純利益	2,749,661	312,554	3,444,365	391,521
追加 / （控除）：				
現金の変動に影響を及ぼさない項目：				
減価償却	237,971	27,050	248,817	28,283
営業活動に関連のある 非現金残高の純変動：				
売掛金	313,905	35,682	68,174	7,749
その他未収金および前払費用	(49,012)	(5,571)	(25,204)	(2,865)
関連会社に対する債権	(179,809)	(20,439)	64,317	7,311
買掛金および未払費用	(85,170)	(9,681)	(4,220)	(480)
前受収入および顧客買掛金	38,365	4,361	(26,521)	(3,015)
未払従業員賞与	200,697	22,813	(43,515)	(4,946)
営業活動による現金純額	3,226,608	366,769	3,726,213	423,559
投資活動				
固定資産の購入	(3,264)	(371)	-	-
資産売却による損失	-	-	7,246	824
投資活動による / （で使用した）現金純額	(3,264)	(371)	7,246	824
財務活動				
支払配当金	(2,316,333)	(263,298)	(3,582,647)	(407,239)
リース債務の支払額	(210,452)	(23,922)	(207,275)	(23,561)
財務活動で使用した現金純額	(2,526,785)	(287,220)	(3,789,922)	(430,800)
現金および現金同等物の当期（減少） / 増加	696,559	79,178	(56,463)	(6,418)
現金および現金同等物の期首残高	1,362,151	154,836	1,418,614	161,254
現金および現金同等物の期末残高	2,058,710	234,014	1,362,151	154,836

添付の連結財務諸表に対する注記を参照。

連結財務諸表に対する注記

2020年12月31日

（米ドル表示）

1. 会社設立および一般情報

インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド（以下「当社」という。）は、1974年8月30日にケイマン諸島の会社法（2020年改正）に基づき設立され、会社管理、保険管理および法人事務サービスを提供している。1985年12月12日、当社は会社管理法（2019年改正）の第4（5）節に基づき、ケイマン諸島における会社管理事業の運営認可を得た。1988年5月13日、当社は2010年保険法の第4（2）節に基づき、ケイマン諸島における保険管理事業の運営認可を得た。1994年7月27日、当社はミューチュアル・ファンド法（2020年改正）の第12節に基づき、ミューチュアル・ファンド管理事業の運営認可を得た。2004年6月7日、当社は銀行および信託会社法（2020年改正）に基づき、ケイマン諸島における信託事業の運営認可を得た。2006年12月28日、当社は会社管理事業の認可を放棄した。

当社は、ケイマン諸島で設立されたIMSグループ・リミテッドの完全子会社である。

当社およびその完全子会社（以下「当グループ」という。）の財務結果は、年末に当グループに連結される。

当社の登録所在地は、ケイマン諸島、グランド・ケイマンKY1-1102、ジョージタウン、ハーバーセンター3階、私書箱61号である。

2020年12月31日現在の当社の従業員数は25名であった（2019年：27名）。

2. 表示の基準

(a) 順守声明

本連結財務諸表は、国際会計基準審議会（以下「IASB」という。）が公表する国際財務報告基準（以下「IFRS」という。）に従い取締役会により作成および承認されている。

経営陣は、当グループの継続企業の前提について検討し、予測可能な将来において当グループが事業継続のための資源を有していることを認めている。さらに、経営陣は、当グループの継続企業の前提について重大な疑義を生じる可能性のある重要な不確実性を認識していない。ゆえに、本連結財務諸表は、引き続き継続企業としての前提に基づき作成される。

(b) 測定基準

本連結財務諸表は、償却原価で測定される金融資産および金融負債を除き、取得原価基準で作成される。

(c) 機能通貨および表示通貨

当グループの機能通貨および表示通貨は米ドルであり、ケイマン諸島の現地通貨ではない。これは、当グループの業務が主に米ドルで行われている事実を反映したものである。

(d) 見積りおよび判断の使用

IFRSに基づいた連結財務諸表の作成においては、経営陣が判断を下し、見積りおよび仮定を作成することが必要となる。この判断、見積りおよび仮定は、会計方針の適用、本連結財務諸表日における資産および負債の計上金額、偶発資産および偶発負債の開示、ならびに、事業年度における損益の計上金額に影響を及ぼす。実際の結果はこれらの見積りと異なる場合がある。

(e) 対応数値

従前の一定期間の金額は、当事業年度の表示に整合するよう再分類されている。

(f) 2020年1月1日に開始する年次期間に適用される新基準

当グループに重大な影響を及ぼす2020年1月1日に開始する年次期間に適用される新基準または修正はない。

3. 重要な会計方針

以下の会計方針は、本連結財務諸表に表示されている全期間にわたり一貫して適用されている。会計方針の変更はない。当グループが採用した重要な会計方針は以下の通りである。

(a) 連結完全子会社

会社名	事業	設立日 / 子会社化日
SHコーポレート・サービス・リミテッド	登録事務所業務	2001年4月20日
A.S. ノミニーズ・リミテッド*	ノミニー会社	1978年1月27日
N.D. ノミニー・リミテッド*	ノミニー会社	1978年1月27日
N.S. ノミニー・リミテッド*	ノミニー会社	1978年1月27日
カーディナル・ノミニー・リミテッド*	ノミニー会社	1979年10月26日
IMSトラスティーズ・リミテッド*	受託サービス	2012年4月27日
IMSリクイデーションズ・リミテッド	清算サービス	2013年1月25日

* ノミニーとして行為するために設立されたものであり、2020年および2019年12月31日に終了した事業年度中、自己の権限において取引を行ったことはなかった。

これらの完全子会社が得る収入および負担する費用は、すべて当社が計上し、すべての企業間取引および残高は連結時に消去される。子会社の財務諸表は、支配が開始した日から支配が終了した日まで連結財務諸表に含まれる。当グループは、企業結合において、支配が当社に移った時点で取得法を用いて会計処理を行う。企業結合の対価は、識別可能な取得された純資産を原則として公正価値で測定する。

(b) 金融資産および金融負債

() 分類

金融資産とは、現金、現金もしくは他の金融資産を受領する契約上の権利、有利となる可能性のある状況下で金融商品の取引を行う契約上の権利、または、他の企業の持分金融商品を指す。金融資産は、現金および現金同等物、売掛金、その他の未収金および関連会社に対する債権から構成される。

金融負債とは、現金もしくは他の金融資産を提供する契約上の義務、または、不利となる可能性のある状況下で他の企業と金融商品を取引する契約上の義務を指す。金融負債は、関連会社に対する債務、買掛金および未払費用、未払従業員賞与および未払配当金から構成される。

() 認識

当グループは、当グループが金融商品の契約条項の当事者となる日において金融資産および金融負債を認識する。

() 測定

金融商品は当初、原価で測定される。取得した金融資産については原価は支払われた対価の公正価値であり、金融負債については原価は受領した対価の公正価値である。金融資産ま

たは金融負債の償却原価は、当初認識時に金融資産または金融負債が測定された金額から元本返済額を差し引き、当初認識された金額と満期の金額との差額に対する実効金利法を用いた累積償却額を加減し、減損による減少額を差し引いた金額である。

() 公正価値

公正価値の見積りは、市況および当該金融商品に関する情報に基づき、一定時点において行われる。これらの見積りは本来主観的なものであり、不確定要素や重要な判断に関する事項が含まれているため、正確に決めることはできない。仮定の変更が、当該見積りに大きな影響を及ぼす可能性もある。

金融資産および金融負債の簿価は、これらの金融商品の即時または短期的性質により、ほぼ公正価値と近似すると考えられる。

() 認識中止

金融資産は、当グループが当該資産を構成する契約上の権利に対する支配権を失った時点で認識中止となる。認識中止は、契約上の権利が実現し、失効しまたは放棄された際に行われる。

金融負債は、契約に明記されている義務が果たされ、取り消され、または失効した際に認識中止となる。

() 回収可能額の減損および計算

IFRS第9号では、発生信用損失モデルではなく、予想信用損失モデルを要求している。予想信用損失モデルでは、金融資産の当初認識以降の信用リスクの変化を反映させるために、予想信用損失と各報告日におけるそれらの予想信用損失の変動の会計処理をすることが当グループに要求される。言い換えれば、信用損失が認識される前に、信用事由が発生している必要はない。

当グループの売掛金は、本質的に異なる業務に関連するものであり、大部分は信託業務の提供から、そして比較的程度は低い登録事務所業務の提供から生じるものである。これらのサービスが提供される顧客は、規制、管理されたヘッジ・ファンドやキャプティブ保険が大半であり、残りの顧客は、個人や個人企業に属する会社や信託である。

これらの顧客の報酬が全期間を通じて未払いとなる場合があるが、顧客企業はグッドスタンディングな状態にあることから、翌年の登録更新時には支払いがなされる可能性が高い。経営陣は、未払い状態が継続する債権（第一カテゴリー）については、全額引き当てるのが最も慎重な方法であると判断する一方で、グッドスタンディングな顧客に対する債権（第二カテゴリー）については全額回収可能であると考えており、貸倒を予想していないため、引当金は必要ないと判断した。

減損は、連結包括利益計算書で認識される。認識の次期に減損額が減少し、当該減少が評価損計上後に発生した事象に客観的に結びつけることができる場合は、包括利益計算書を通じて当該評価損または引当金の戻入れが行われる。

(c) 収益の認識

当グループは、契約上の義務が履行され、業務の支配が顧客に移転するにつれ、提供される業務に対価としてある一時点または一定期間にわたって受領されると見込まれる金額で収益を認識する。

契約上の義務が一定期間に履行され、収益が一定期間に認識される場合。

ある一時点で義務が履行された場合、所有権に伴うリスクと対価が顧客に移転した時点で収益が認識される。これは、業務が顧客に提供され、顧客による業務の受領に影響を与えるような義務に未履行のものが無い時点である。

業務の性質

以下は、当グループが収益を生み出す主な活動の概要である。

(i) 専門的業務

役員業務、キャプティブ保険管理業務、信託業務、マネーロンダリング防止業務を含む一連の専門的な業務から生じる報酬。

() 関連当事者からの管理報酬

関連当事者に対する管理事務業務の提供により発生する報酬。

() 登録事務所業務

登録事務所業務の提供から生じる報酬。

履行義務および収益の認識の方針

当グループは、顧客企業に対する信託業務および登録事務所業務の提供による収益を認識している。要求される特定業務には、年度を通じた顧客企業の受託者としての役割を果たす取締役業務の提供と、一定の年間報酬による顧客企業に対する登録事務所業務の提供が含まれる。さらに、契約条項の一環として、顧客企業は、契約に規定された報酬に基づく事業年度を通じた法人業務も要求する。

信託業務は、当グループの事業年度と一致する暦年で表される年間期間に対して提供される。当該業務は年次で提供される。ただし、顧客企業との関係が終了し、取締役が正式に取締役会を退任する必要がある場合はこの限りではない。この場合、短縮された期間で按分された報酬が承認される。

信託業務に関する当グループの標準的な契約では、年間の定額報酬を定めているが、一部のケースでは、一定期間に認識される業務の定額報酬と、信託業務機能の追加的な業務の提供に使用した時間をベースとした報酬を組み合わせている場合もある。役員業務契約は、顧客企業のニーズを踏まえた臨時の要請で、履行義務の条件を概説したものである。これらの使用期間をベースとする業務は時期が明確であり、業務が提供された日をベースとして認識される。

登録事務所業務の提供は、暦年に発生する別個の業務とみなされる。この期間は、当グループおよび政府会計年度と一致しており、したがって、収益は事業年度にわたり、業務が提供された時点で認識される。詳細については、注記6を参照のこと。

契約残高の認識

契約資産とは、既に顧客に移転された業務の対価を得る権利である。当グループが、顧客が対価を支払う前、または支払期日が到来する前に顧客に業務を移転して業務を履行した場合、契約資産は条件付きの未収対価として認識される。2020年12月31日現在、当グループは、契約資産を保有していない（2019年：0米ドル）。

契約債務とは、当グループが顧客から対価を受領済み（または対価の支払期限が到来済み）である場合の顧客に業務を移転する義務である。当グループが業務を顧客に移転する前に、顧客が対価を支払った場合、支払いが行われた時点または支払期日が到来した時点（いずれか早い方）で契約債務が認識される。契約債務は、当グループが契約に基づいて義務を履行した時点で収益として認識される。当グループの契約債務は、翌年の収益に関連して受領した支払額からの前受収入で構成されている。詳細は注記6を参照のこと。

(d) 外貨

外貨建ての資産および負債は、連結財政状態計算書日の実勢為替レートで換算される。外貨建て取引は、取引日の為替レートで換算される。その結果生じる為替損益は、連結包括利益計算書に計上される。

(e) 現金および現金同等物

現金および現金同等物は、当初の満期が3か月以内の金融機関に保管されている当座預金から構成される。

(f) 有形固定資産

有形固定資産は、原価から減価償却累計額および減損損失累計額を控除した金額で表示される。

減価償却は、各資産の期待耐用年数の期間にわたり残存価額を考慮して、以下のそれぞれの方法で計算され、連結包括利益計算書で認識される。

オフィスビル： 年率2.5%（逓減残高法）

コンピュータ機器： 年率20%（定額法）

什器および機器： 年率10%（逓減残高法）

リース物件改良費： 年率10%（逓減残高法）

有形固定資産の簿価は、減損の兆候が存在するかを決定するために、各報告日にレビューが行われる。減損損失は、特定された年度の連結包括利益計算書で認識される。

(g) リース

当グループは、貸借対照表上、使用权資産およびリース債務をリース開始日において認識する。使用权資産は、取得原価で測定され、取得原価は、リース債務の当初測定額、当グループが負担したすべての当初直接費用、リース終了時に資産を解体、撤去するための費用の見積り、およびリース開始日前になされたあらゆるリース料（受領したインセンティブ額控除後）から構成されている。

当グループは、使用权資産をリース開始日から使用权資産の耐用年数終了時またはリース期間終了時のいずれか早い方まで、定額法により償却している。当グループはまた、かかる指標が存在する場合、使用权資産の減損に対する評価も行っている。

(h) 収益の認識および報酬の事前請求

管理報酬は、業務が提供された期間にわたり連結包括利益計算書で認識される。

前受収入および顧客買掛金は、今後、提供されるサービスに関する顧客からの前払金から構成される。

(i) 費用

費用は、発生主義に基づき連結包括利益計算書で認識される。

(j) 従業員給付制度

() 確定拠出年金制度

当グループは、確定拠出制度に参加している。確定拠出制度は、当グループが別の団体に一定額を拠出する退職給付制度で、今期または過去の期間における従業員の勤務に関連し、すべての従業員給付を支払うのに必要な資産を制度が保有していない場合は、当グループに法的または法定義務は発生しない。確定拠出年金制度への拠出義務は、発生時に連結包括利益計算書において費用として認識される。

() 短期給付

短期従業員給付義務は、割引前ベースで測定され、関連サービスが提供された時点で費用計上される。従業員の過去の勤務の結果、一定金額を支払う法的または法定義務が当グループにあり、当該義務を確実に見積もることができる場合に、短期現金賞与または利益分配制度に基づいて支払われることが予想される一定金額が負債として認識される。

(k) 管理資産

通常の業務過程において、当グループは信託の受託者として行為する信託サービスを提供している。当グループが管理している信託の資産および負債は、本連結財務諸表に含まれない。

4. 財務リスク管理

(a) 概要

当グループは、金融商品を通じて信用リスク、流動性リスクおよび市場リスクにさらされている。この注記は、これらのリスクに対する当グループのエクスポージャー、リスク測定および管理ならびに当グループの資本管理に関する当グループの目標、方針およびプロセスについての情報をまとめたものである。

リスク管理の枠組み

取締役会は、当グループの財務リスク管理の枠組みを確立、監視する全体的責任を担う。

(b) 信用リスク

信用リスクとは、顧客または金融商品取引の相手方が義務を遂行しない場合に当グループに経済的損失が生じるリスクを指し、主に当グループの売掛金、現金および現金同等物ならびに関連会社に対する債権から発生する。

当グループの信用リスクに対するエクスポージャーは、主に各顧客の特性の影響を受ける。顧客が事業を展開する業界および国のデフォルト・リスクを含む当グループの顧客基盤の人口データは、信用リスクにそれほど影響を及ぼさない。単独で当グループの収入の5%を超えるシェアを占める顧客はいない。

当グループは、売掛金に関する見積損失額を貸倒引当金として設定している。引当金は一定期間内の個別残高に対するものである。

信用リスクに対する当グループのエクスポージャーの性質ならびに信用リスク管理の目標、方針およびプロセスは、前期から大きく変化していない。信用リスクに対する当グループの最大エクスポージャーは、当グループの金融資産の簿価である。

信用リスクの管理

当グループは、現金および現金同等物を保護するため、信頼できる金融機関を使ってこれらの金融資産に関する信用リスクを管理している。経営陣は、この関係により何らかの経済的損失が発生するとは考えていない。

当グループは、顧客の財政状態に関する初期信用評価を行うことで、売掛金に関する信用リスクを管理している。経営陣は、顧客残高の定期的なレビューを実施している。経営陣は、重要な取引相手方が債務を返済できなくなるとは考えていない。経営陣は、支払期限が経過した未減損の金額について、全額回収可能と考えている。

報告日における当グループの売掛金の滞留期間は以下の通りであった。

	総額 2020年	減損 2020年	総額 2019年	減損 2019年
0～30日	90,065	(414)	282,381	(23,746)
31～60日	27,898	(77)	49,882	(6,574)
61～90日	25,623	(87)	56,610	(12,011)
91日～	831,379	(373,639)	842,771	(274,660)

米ドル	974,965	(374,217)	1,231,644	(316,991)
-----	---------	-----------	-----------	-----------

(c) 流動性リスク

流動性リスクとは、当グループが期日に債務を返済できなくなるリスクを指す。流動性管理に関する当グループのアプローチは、許容範囲を超える損失を発生させる、または、当グループの評判を傷つけることなく、通常時またはストレス時のいずれの状況においても、期日が到来した時点で債務を返済するだけの十分な流動性をできるだけ確保するというものである。流動性リスクに対する当グループのエクスポージャーの性質ならびに流動性リスク管理の目標、方針およびプロセスは、前期から大きく変化していない。

(d) 市場リスク

市場リスクとは、為替レートなど、市場価格の変動により当社の利益または当グループが保有する金融商品の価格が影響を受けるリスクを指す。市場リスク管理の目的は、収益を最適化しながら、市場リスクのエクスポージャーを許容可能な範囲内に管理しコントロールすることである。

(e) 通貨リスク

通貨リスクは、当グループにおける費用の支払いの一部がケイマン諸島ドルで行われていることから生じる。通貨リスクは、ケイマン諸島ドルが米ドルに対し固定されていることにより軽減されている。

(f) 資本管理

当グループの規制当局であるケイマン諸島金融管理庁（以下「管理庁」という。）は、金融管理法（2020年改正）、会社管理法（2019年改正）、2010年保険法、ミューチュアル・ファンド法（2020年改正）、ならびに銀行および信託会社法（2020年改正）に基づき、当グループの自己資本規制を設定、モニタリングしている。当グループは、40万ケイマン諸島ドル（50万米ドル）の最低自己資本を維持することが義務付けられており、申告提出期限は期末日から3か月である。当グループの方針は、事業の将来的な発展を継続するための強固な資本基盤を維持することである。当グループは、当期全体を通して、課せられたすべての自己資本規制を順守した。また、当期を通じ、当グループの資本管理に大きな変更はなかった。

5. 収益

収益は、顧客との契約に定められた対価に基づいて測定され、第三者のために回収された金額は含まれていない。

顧客との契約から認識された収益について、報告日現在の提供業務別の内訳は以下の通りである。

収益の内訳

	2020年	2019年
専門的業務	8,134,715	9,113,418
関係当事者からの管理報酬	475,349	464,185
登録事務所業務	361,616	438,051
米ドル	8,971,680	10,015,654

年間報酬は、上記業務の対価として顧客企業に請求される。これは主に固定報酬の形態をとり、年間を通じたタイムチャージ方式による追加報酬が加算される。当該収益は、業務が提供された時点、または業務の支配が顧客に移転した時点で、時間の経過とともに認識される。

契約上の債務

以下の表は、顧客との契約から生じる契約上の債務に関する情報であり、以下の数値は、前受収入および顧客買掛金として表示される収益の一部を構成している。

	契約債務	
	2020年	2019年
次年度以降の収益に関連して受領した支払金による増加	(658,279)	(640,290)

2020年12月31日現在の残存履行義務のうち、IFRS第15号で認められている当初の予想期間が1年以内のものに関する情報は提供されていない。

6. 売掛金

	2020年	2019年
売掛金総額	974,965	1,231,644
貸倒引当金	(374,217)	(316,991)
米ドル	600,748	914,653

当期中の貸倒引当金の変動は以下の通りである。

	2020年	2019年
期首残高	316,991	162,950
連結包括利益計算書への計上額	66,854	126,731
不良債権の回収	88,121	-
損金処理された不良債権	(97,769)	27,310
米ドル	374,217	316,991

7. 有形固定資産

2020年	オフィス ビル	コンピュータ 機器	什器 および機器	リース物件 改良費	合計
原価：					
期首残高	341,637	393,590	239,816	156,891	1,131,934
追加	-	3,264	-	-	3,264
処分	-	-	-	-	-
期末残高	341,637	396,854	239,816	156,891	1,135,198
減価償却累計額：					
期首残高	185,889	373,774	181,491	98,219	839,373
当期計上額	3,689	12,096	7,393	4,399	27,577
期末残高	189,578	385,870	188,884	102,618	866,950

2020年12月31日現在の 正味帳簿価格						
	米ドル	152,059	10,984	50,932	54,273	268,248
2019年		オフィス ビル	コンピュータ 機器	什器 および機器	リース物件 改良費	合計
原価：						
期首残高		341,637	402,996	239,816	156,891	1,141,340
追加		-	-	-	-	-
処分		-	(9,406)	-	-	(9,406)
期末残高		341,637	393,590	239,816	156,891	1,131,934
減価償却累計額：						
期首残高		181,790	358,853	172,710	90,884	804,237
当期計上額		4,099	17,083	8,781	7,335	37,298
処分		-	(2,162)	-	-	(2,162)
期末残高		185,889	373,774	181,491	98,219	839,373
2019年12月31日（訳注）						
現在の正味帳簿価格	米ドル	155,748	19,316	58,325	58,672	292,561

（訳注）原文では「December 31, 2020」（2020年12月31日）と記載されているが、正しくは「December 31, 2019」（2019年12月31日）である旨の確認が取れているため、本文書においては正しい英文に対する訳文を記載している。

8. 株式資本

	2020年	2019年
授權株式：		
80,000株（1株当たり1ケイマン諸島ドル）	米ドル 96,000	96,000
発行済みおよび全額払込済株式：		
41,667株	米ドル 50,000	50,000

9. リース

当グループは、営業用物件（オフィスビルのフロア）についてのリースを有している。当該リースは、連結財政状態計算書に使用権資産およびリース債務として反映される。当グループは、使用権資産を有形固定資産の項目に一貫した方法で分類している（注記7参照）。

リースは、一般的に、契約上当グループが資産を他の当事者に転貸する権利が定められていない限り、使用権資産は当グループのみが使用することができるという制限が課されている。リースの解約は、相当額の解約手数料を負担する場合のみ可能である。当グループの現行リースは満期まで7か月間である。経営陣は、現行の条件でさらに36か月間のリースの更新が合理的に確実であると判断している。

以下の表は、貸借対照表で認識される当グループのリース取引の性質を記載したものである。

使用権資産	2020年	2019年
オフィス物件	123,386	334,905
オフィス物件の更新	632,975	-
米ドル	756,361	334,905

リース債務は、以下の通り連結財政状態計算書に表示されている。

	2020年	2019年
1年未満		
現行リース	127,575	213,578
更新リース	84,779	-
	212,354	213,578
1年以上		
現行リース	-	127,575
更新リース	548,196	-
米ドル	548,196	127,575

10. 確定拠出年金制度

当グループは、確定拠出年金制度であるフィデリティ年金制度に参加している。当グループは、従業員の年収の5%を上限とする各従業員の拠出額と同じ額を拠出する義務がある。2020年12月31日に終了した事業年度における当グループの拠出総額は83,391米ドル（2019年：113,355米ドル）であった。

11. 関連当事者取引

2020年12月31日に終了した事業年度において、当グループは関連会社から以下の事務手数料および管理手数料を得た。

	2020年	2019年
コーポレート・ファイリング・サービス・リミテッド	米ドル 475,349	464,186
IMSセキュリティーズ・リミテッド	125,414	116,239

関連会社に対する債権の金額は以下の通りである。

	2020年	2019年
コーポレート・ファイリング・サービス・リミテッド	米ドル 272,903	93,094

2020年12月31日に終了した事業年度中、当グループは短期雇用給付金として4,233,086米ドル（2019年：4,464,445米ドル）および長期雇用給付金として63,289米ドル（2019年：88,356米ドル）を、主要経営陣に支払った。

12. 偶発事象

当グループは、信託会社としての役割上、通常の業務過程において訴訟および請求の当事者となる可能性がある。当グループの法律顧問の助言に基づく取締役会の見解によれば、2020年12月31日現在偶発事象に関する引当金は要求されていない（2019年：なし）。

13. 後発事象

本連結財務諸表の作成において、経営陣は本連結財務諸表が公表可能となった2021年3月25日までのすべての重要な後発事象を評価し開示した。

INTERNATIONAL MANAGEMENT SERVICES LTD.

Consolidated Statement of Financial Position

December 31, 2020

(stated in United States dollars)

	Note	2020	2019
Assets			
Current assets			
Cash and cash equivalents		2,058,710	1,362,151
Accounts receivable	4,6	600,748	914,653
Other receivables and prepaid expenses		186,744	137,732
Due from affiliated companies	11	272,903	93,094
		3,119,105	2,507,630
Non-current assets			
Property, plant and equipment	7	268,248	292,561
Right-of-use asset	9	756,361	334,905
		1,024,609	627,466
Total assets		US\$ 4,143,714	3,135,096
Liabilities and shareholder's equity			
Current liabilities			
Accounts payable and accrued expenses		47,865	133,035
Unearned income and payable to clients	6	747,805	709,440
Lease liability	9	212,354	213,578
Staff bonuses payable		690,915	490,217
Dividends payable		1,246,579	811,251
		2,945,518	2,357,521
Non-current liabilities			
Lease liability	9	548,196	127,575
		548,196	127,575
Shareholder's equity			
Share capital	8	50,000	50,000
Retained earnings		600,000	600,000
		650,000	650,000
Total liabilities and shareholder's equity		US\$ 4,143,714	3,135,096

*See accompanying notes to consolidated financial statements.*Approved on behalf of the Board on March 25, 2021
 Director

INTERNATIONAL MANAGEMENT SERVICES LTD.

Consolidated Statement of Comprehensive Income

Year ended December 31, 2020

(stated in United States dollars)

	Note	2020	2019
Income			
Revenue	5	8,971,680	10,015,654
Less: Bad and doubtful debts	6	(66,854)	(126,731)
		8,904,826	9,888,923
Other income		539,448	512,319
Rental income		52,721	61,113
Administration expenses	9,10	(6,747,334)	(7,017,990)
Results from operating activities		2,749,661	3,444,365
Net income for year	US\$	2,749,661	3,444,365

See accompanying notes to consolidated financial statements.

INTERNATIONAL MANAGEMENT SERVICES LTD.

Consolidated Statement of Changes in Shareholder's Equity

Year ended December 31, 2020

(stated in United States dollars)

	Share capital	Retained earnings	Total
Balance at December 31, 2018	50,000	600,000	650,000
Net income for year	-	3,444,365	3,444,365
Dividends declared	-	(3,442,362)	(3,442,362)
Balance at December 31, 2019	50,000	600,000	650,000
Net income for year	-	2,749,661	2,749,661
Dividends declared	-	(2,749,661)	(2,749,661)
Balance at December 31, 2020	US\$ 50,000	600,000	650,000

See accompanying notes to consolidated financial statements.

INTERNATIONAL MANAGEMENT SERVICES LTD.**Consolidated Statement of Cash Flows**

Year ended December 31, 2020

(stated in United States dollars)

	2020	2019
Operating activities		
Net income for year	2,749,661	3,444,365
Add/(deduct):		
Items not affecting the movement of cash:		
Depreciation	237,971	248,817
Net changes in non-cash balances relating to operations:		
Accounts receivable	313,905	68,174
Other receivables and prepaid expenses	(49,012)	(25,204)
Due from affiliated companies	(179,809)	64,317
Accounts payable and accrued expenses	(85,170)	(4,220)
Unearned income and payable to clients	38,365	(26,521)
Staff bonuses payable	200,697	(43,515)
Net cash provided by operating activities	3,226,608	3,726,213
Investing activities		
Purchase of fixed assets	(3,264)	-
Loss on disposal of assets	-	7,246
Net cash provided by /(used in) investing activities	(3,264)	7,246
Financing activities		
Dividends paid	(2,316,333)	(3,582,647)
Repayment of lease liabilities	(210,452)	(207,275)
Net cash used in financing activities	(2,526,785)	(3,789,922)
(Decrease)/increase in cash and cash equivalents during year	696,559	(56,463)
Cash and cash equivalents beginning of year	1,362,151	1,418,614
Cash and cash equivalents end of year	US\$ 2,058,710	1,362,151

See accompanying notes to consolidated financial statements.

INTERNATIONAL MANAGEMENT SERVICES LTD.

Notes to Consolidated Financial Statements

December 31, 2020

*(stated in United States dollars)***1. Incorporation and background information**

International Management Services Ltd. (the “Company”) was incorporated under the Companies Law (2020 Revision) of the Cayman Islands on August 30, 1974 and provides company and insurance management and corporate secretarial services. On December 12, 1985, the Company was licensed under Section 4 (5) of The Companies Management Law (2019 Revision) to carry on the business of company management in or within the Cayman Islands. On May 13, 1988, the Company was licensed under Section 4 (2) of The Insurance Law 2010, to carry on the business of insurance management in or within the Cayman Islands. On July 27, 1994, the Company was licensed under Section 12 of The Mutual Funds Law (2020 Revision) to carry on the business of mutual fund administration. On June 7, 2004 the Company was licensed under the Banks and Trust Companies Law (2020 Revision), to carry on trust business from within the Cayman Islands. On December 28, 2006, the Company surrendered its Companies Management Licence.

The Company is a wholly owned subsidiary of The IMS Group Ltd., a company also incorporated in the Cayman Islands.

The financial results of the Company and its wholly owned subsidiaries (the “Group”) are consolidated at year end to form the Group.

The registered office of the Company is 3rd Floor Harbour Centre, George Town, P.O. Box 61, Grand Cayman KY1-1102, Cayman Islands.

The Group had 25 employees as at December 31, 2020 (2019: 27).

2. Basis of presentation*(a) Statement of compliance*

These consolidated financial statements are prepared and approved by the Directors in accordance with International Financial Reporting Standards (“IFRS”) as issued by the International Accounting Standards Board (“IASB”).

Management has made an assessment of the Group's ability to continue as a going concern and is satisfied that the Group has the resources to continue in business for the foreseeable future. Furthermore, management is not aware of any material uncertainties that may cast a significant doubt upon the Group's ability to continue as a going concern. Therefore, the consolidated financial statements continue to be prepared on the going concern basis.

(b) Basis of measurement

These consolidated financial statements are prepared on the historical cost basis except for financial assets and financial liabilities which are measured at amortised cost.

(c) Functional and presentation currency

The Group's functional and presentation currency is the United States dollar and not the local currency of the Cayman Islands reflecting the fact that the Group's operations are primarily conducted in United States dollars (US\$).

INTERNATIONAL MANAGEMENT SERVICES LTD.

Notes to Consolidated Financial Statements (continued)

December 31, 2020

*(stated in United States dollars)***2. Basis of presentation (continued)***(d) Use of estimates and judgements*

The preparation of consolidated financial statements in accordance with IFRS requires management to make judgements, estimates and assumptions that affect the application of accounting policies and the reported amounts of assets and liabilities and disclosure of contingent assets and liabilities at the date of the consolidated financial statements and the reported amounts of income and expenses during the year. Actual results could differ from those estimates.

(e) Corresponding figures

Certain prior year amounts have been reclassified to conform to the current year presentation.

(f) New Standards effective for annual period beginning 1 January 2020

There are no new standards or amendments effective for annual periods beginning 1 January 2020 that will have a significant impact to the Group.

3. Significant accounting policies

The accounting policies set out below have been applied consistently to all periods presented in these consolidated financial statements. There have been no changes to accounting policies. The significant accounting policies adopted by the Group are as follows:

(a) Consolidated wholly owned subsidiaries

Company	Business	Date of incorporation/ addition
SH Corporate Services Ltd	Registered Office Services	April 20, 2001
A.S. Nominees Ltd.*	Nominee Company	January 27, 1978
N.D. Nominee Ltd. *	Nominee Company	January 27, 1978
N.S. Nominee Ltd.*	Nominee Company	January 27, 1978
Cardinal Nominee Limited*	Nominee Company	October 26, 1979
IMS Trustees Ltd.*	Trustee Services	April 27, 2012
IMS Liquidations Ltd.	Liquidation Services	January 25, 2013

- * These wholly owned subsidiaries of the Company have been established to act only in a nominee capacity and have not traded in their own right during the year ended December 31, 2020 and 2019.

INTERNATIONAL MANAGEMENT SERVICES LTD.

Notes to Consolidated Financial Statements (continued)

December 31, 2020

(stated in United States dollars)

3. Significant accounting policies (continued)*(a) Consolidated wholly owned subsidiaries (continued)*

All income earned and expenses incurred by these companies are accounted for by the Company and all inter-company transactions and balances are eliminated on consolidation. The financial statements of the subsidiaries are included in the consolidated financial statements from the date that control commences to the date that control ceases. The Group accounts for business combinations using the acquisition method when control is transferred to the Group. The consideration is generally measured at fair value, as are the identifiable net asset acquired.

*(b) Financial assets and liabilities**(i) Classification*

A financial asset is any asset that is cash, a contractual right to receive cash or another financial asset, or to exchange financial instruments under conditions that are potentially favourable or an equity instrument of another enterprise. Financial assets comprise cash and cash equivalents, accounts receivable, other receivables and prepaid expenses and due from affiliated companies.

A financial liability is any liability that is a contractual obligation to deliver cash or another financial asset or to exchange financial instruments with another enterprise under conditions that are potentially unfavourable. Financial liabilities comprise due to affiliated companies, accounts payable and accrued expenses, staff bonuses payable and dividend payable.

(ii) Recognition

The Group recognises financial assets and financial liabilities on the date it becomes a party to the contractual provisions of the instrument.

(iii) Measurement

Financial instruments are measured initially at cost. For financial assets acquired, cost is the fair value of the consideration given, while for financial liabilities, cost is the fair value of consideration received. The amortized cost of a financial asset or liability is the amount at which the financial asset or liability is measured at initial recognition, minus principal repayments, plus or minus the cumulative amortisation using the effective interest method of any difference between the initial amount recognized and the maturity amount, minus any reduction for impairments.

INTERNATIONAL MANAGEMENT SERVICES LTD.

Notes to Consolidated Financial Statements (continued)

December 31, 2020

(stated in United States dollars)

3. Significant accounting policies (continued)*(b) Financial assets and liabilities (continued)**(iv) Fair value*

Fair value estimates are made at a specific point in time, based on market conditions and information about the financial instrument. These estimates are subjective in nature and involve uncertainties and matters of significant judgement and therefore, cannot be determined with precision. Changes in assumptions could significantly affect the estimates.

The carrying amount of financial assets and liabilities is considered to approximate fair value due to the immediate or short-term nature of these financial instruments.

(v) Derecognition

A financial asset is derecognised when the Group loses control over the contractual rights that comprise that asset. This occurs when the rights are realised, expire or are surrendered.

A financial liability is derecognised when the obligation specified in the contract is discharged, cancelled or expired.

(vi) Impairment and calculation of recoverable amount

IFRS 9 requires an expected credit loss model as opposed to an incurred credit loss model. The expected credit loss model requires the Group to account for expected credit losses and changes in those expected credit losses at each reporting date to reflect changes in credit risk since initial recognition of the financial assets. In other words, it is not necessary for a credit event to have occurred before credit losses are recognised.

The Group's accounts receivable is related to services that are different in nature, the majority are derived from the provision of fiduciary services and then to a lesser extent from the provision of registered office services. The clients that these services are provided to consist of a majority of regulated and administrated hedge funds and insurance captives, the remainder of clients are companies or trusts belonging to individuals or individual companies.

Those very same clients may have fees outstanding for the entire period, however, as the client companies are in good standing it is highly probable that they will settle their dues when renewing their companies' registrations in the following year. Management has determined that providing for these first category receivables in full for all ageing categories is the most prudent path, conversely as management believe second category receivables to be fully collectable, no provision would therefore be necessary as no credit loss is expected.

INTERNATIONAL MANAGEMENT SERVICES LTD.

Notes to Consolidated Financial Statements (continued)

December 31, 2020

*(stated in United States dollars)***3. Significant accounting policies (continued)***(b) Financial assets and liabilities (continued)**(vi) Impairment and calculation of recoverable amount (continued)*

Impairment losses are recognised in the consolidated statement of comprehensive income. If in a subsequent period the amount of impairment loss decreases and the decrease can be linked objectively to an event occurring after the write-down, the write-down or allowance is reversed through the statement of comprehensive income.

(c) Revenue Recognition

The Group recognises revenue in the amount expected to be received for services supplied at a point in time or over time as contractual performance obligations are fulfilled and control of services passes to the customer.

Where the contractual performance obligations are satisfied over time and revenue is recognised over time.

Where performance obligations are satisfied at a point in time, revenue is recognised when the risks and rewards of ownership have transferred to the customer. This is at the point where the service is delivered to the customer and there are no unfulfilled obligations that could affect the customer's acceptance of the service.

Nature of services

The following is a description of the principal activities from which the Group generates its revenue.

(i) Professional services

Fees generated from a range of professional services including directorship services, captive insurance management services, trustee services and anti-money laundering services.

(ii) Management fee from related party

Fees generated from the provision of administration services to a related party.

(iii) Registered office services

Fees generated from the provision of registered office services.

Performance obligations and revenue recognition policies

The Group recognizes revenue from the provision of fiduciary and registered office services to client companies. The specific services required involve the annual provision of a director to act in his fiduciary capacity for client companies as well as the provision of a client company registered office for a set annual fee. In addition, as part of the contractual terms, client companies also require corporate services throughout the financial year on the basis of fees specified in the contract.

INTERNATIONAL MANAGEMENT SERVICES LTD.

Notes to Consolidated Financial Statements (continued)

December 31, 2020

(stated in United States dollars)

3. Significant accounting policies (continued)*(c) Revenue Recognition**Performance obligations and revenue recognition policies (continued)*

Fiduciary services are provided for the annual period represented by a calendar year which coincides with the Group's financial year. The service is provided for the annual period unless the client company relationship is terminating, and the director is formally required to resign from the board, in these cases pro-rated fees are agreed upon for the reduced.

The Group's standard contracts for fiduciary services involve a flat fee for the year however in some instances a combination of both a flat fee for annual services recognised over time as well as a fee based on time spent to perform additional services in the fiduciary function. The director services agreements outline the conditions of the performance obligations, these are ad-hoc requests, based on the needs of the client company. These time spent services are distinct in timing and are recognized based on the date the service was performed.

The provision of registered office services is considered a distinct service which occurs in the calendar year. This period aligns with the Group and the Government financial year, the revenue is therefore recognized when the service has been rendered, over the financial year. Refer to note 6 for further disclosures.

Recognition of contract balances

A contract asset is the right to consideration in exchange for services transferred to the customer. If the Group performs by transferring services to a customer before the customer pays consideration or before payment is due, a contract asset is recognised for the unearned consideration that is conditional. The Group does not have any contract assets as at December 31, 2020 (2019: US\$ Nil).

A contract liability is the obligation to transfer services to a customer for which the Group has received consideration (or an amount of consideration is due) from the customer. If a customer pays consideration before the Group transfers services to the customer, a contract liability is recognised when the payment is made or the payment is due (whichever is earlier). Contract liabilities are recognised as revenue when the Group performs under the contract. The Group's contract liabilities comprise unearned income from payments received that relate to the following years revenue. Refer to note 6 for details.

INTERNATIONAL MANAGEMENT SERVICES LTD.

Notes to Consolidated Financial Statements (continued)

December 31, 2020

*(stated in United States dollars)***3. Significant accounting policies (continued)***(d) Foreign currency*

Assets and liabilities that are denominated in foreign currencies are translated at rates of exchange prevailing at the consolidated statement of financial position date. Transactions in foreign currencies are translated at the rates of exchange ruling on the date of the transaction. Any resulting exchange gains or losses are credited or debited to the consolidated statement of comprehensive income.

(e) Cash and cash equivalents

Cash and cash equivalents is comprised of current bank accounts held with financial institutions with original terms to maturity of three months or less.

(f) Property, plant and equipment

Property, plant and equipment are stated at cost less accumulated depreciation and any accumulated impairment loss.

Depreciation is recognised in the consolidated statement of comprehensive income after taking into account residual values over the following expected useful lives of the assets using the respective methods:

Office building	2.5% p.a.	Reducing Balance
Computer equipment	20% p.a.	Straight Line Method
Furniture and equipment	10% p.a.	Reducing Balance
Leasehold improvements	10% p.a.	Reducing Balance

The carrying amount of property, plant and equipment is reviewed at each reporting date to determine whether there is any indication of impairment. Impairment losses are recognised in the consolidated statement of comprehensive income in the year in which they are identified.

(g) Leases

At lease commencement date, the Group recognises a right-of-use asset and a lease liability on the balance sheet. The right-of-use asset is measured at cost, which is made up of the initial measurement of the lease liability, any initial direct costs incurred by the Group, an estimate of any costs to dismantle and remove the asset at the end of the lease, and any lease payments made in advance of the lease commencement date (net of any incentives received).

The Group depreciates the right-of-use assets on a straight-line basis from the lease commencement date to the earlier of the end of the useful life of the right-of-use asset or the end of the lease term. The Group also assesses the right-of-use asset for impairment when such indicators exist.

INTERNATIONAL MANAGEMENT SERVICES LTD.

Notes to Consolidated Financial Statements (continued)

December 31, 2020

(stated in United States dollars)

3. Significant accounting policies (continued)*(h) Income recognition and fees billed in advance*

Management fees are recognised in the consolidated statement of comprehensive income over the period for which services are provided.

Unearned income and payable to clients comprise funds received from clients as prepayments for services to be performed in future years.

(i) Expenses

Expenses are recognised in the consolidated statement of comprehensive income on the accrual basis.

*(j) Employee benefits**(i) Defined contribution pension plan*

The Group participates in a defined contribution plan. A defined contribution plan is a post-employment benefit plan under which the Group pays fixed contributions into a separate entity and has no legal or constructive obligation if the plan does not hold sufficient assets to pay all employee benefits relating to employee service in the current and prior periods. Obligations for contributions to defined contribution pension plans are recognised as an expense in the consolidated statement of comprehensive income as incurred.

(ii) Short-term benefits

Short-term employee benefit obligations are measured on an undiscounted basis and expensed as the related service is provided. A liability is recognised for the amount expected to be paid under short-term cash bonus or profit-sharing plans if the Group has a present legal or constructive obligation to pay this amount as a result of past service provided by the employee and the obligation can be estimated reliably.

(k) Assets under administration

In the normal course of business, the Group provides fiduciary services by acting as trustee of Trusts. The assets and liabilities of the Trusts under the Group's management are not incorporated in these consolidated financial statements.

4. Financial risk management*(a) Introduction and overview*

The Group has exposure to credit, liquidity and market risks through its financial instruments. This note presents information about the Group's exposure to each of these risks and the Group's objective, policies and processes for measuring and managing risk and the Group's management of capital.

INTERNATIONAL MANAGEMENT SERVICES LTD.

Notes to Consolidated Financial Statements (continued)

December 31, 2020

(stated in United States dollars)

4. Financial risk management (continued)*Risk management framework*

The Board of Directors has overall responsibility for the establishment and oversight of the Group's financial risk management framework.

(b) Credit risk

Credit risk is the risk of financial loss to the Group if a client or counterparty to a financial instrument fails to meet its obligations and arises primarily from the Group's accounts receivable, cash and cash equivalents, and due from affiliated companies.

The Group's exposure to credit risk is influenced mainly by the individual characteristics of each client. The demographics of the Group's client base, including the default risk of the industry and country in which clients operate, has less of an influence on credit risk. No client individually represents more than 5% of the Group's income.

The Group establishes a provision for bad and doubtful accounts that represents its estimate of incurred losses in respect of accounts receivable. The allowance is for specific balances within certain ageing periods.

The nature of the Group's exposure to credit risk and its objectives, policies and processes for managing credit risk have not changed significantly from the prior year. The Group's maximum exposure to credit risk is the carrying value of its financial assets.

Management of credit risk

The Group manages credit risk in respect of cash and cash equivalents by using reputable financial institutions to safeguard these financial assets. Management does not expect any financial losses as a result of these relationships.

The Group manages credit risk in respect of accounts receivables by performing initial credit evaluations of the financial condition of its clients. Periodic reviews of outstanding customer balances are performed by management. Management does not expect any significant counterparties to fail to meet their obligations. Management believe that unimpaired amounts that are past due are still collectible in full.

INTERNATIONAL MANAGEMENT SERVICES LTD.

Notes to Consolidated Financial Statements (continued)

December 31, 2020

*(stated in United States dollars)***4. Financial risk management (continued)**

The Group's aging of accounts receivables at the reporting date was:

	Gross 2020	Impairment 2020	Gross 2019	Impairment 2019
0 to 30 days	90,065	(414)	282,381	(23,746)
31 to 60 days	27,898	(77)	49,882	(6,574)
61 to 90 days	25,623	(87)	56,610	(12,011)
More than 91 days	831,379	(373,639)	842,771	(274,660)
US\$	974,965	(374,217)	1,231,644	(316,991)

(c) Liquidity risk

Liquidity risk is the risk that the Group will not be able to meet its financial obligations as they fall due. The Group's approach to managing liquidity is to ensure, as far as possible, that it will always have sufficient liquidity to meet its liabilities when due, under both normal and stressed conditions, without incurring unacceptable losses or risking damage to the Group's reputation. The nature of the Group's exposure to liquidity risk and its objectives, policies and processes for managing liquidity risk have not changed significantly from the prior year.

(d) Market risk

Market risk is the risk that changes in market prices, such as foreign exchange rates, will affect the Group's income or the value of its holdings of financial instruments. The objective of market risk management is to manage and control market risk exposures within acceptable parameters, while optimising the return.

(e) Currency risk

Currency risks arise as a portion of the Group's payment of expenses are in Cayman Island dollars. Currency risk is mitigated as the Cayman Islands dollar is fixed against the United States dollar.

(f) Capital management

The Group's regulator, the Cayman Islands Monetary Authority (the "Authority"), sets and monitors capital requirements for the Group under the Monetary Authority Law (2020 Revision), the Companies Management Law (2019 Revision), the Insurance Law, 2010, the Mutual Funds Law (2020 Revision) and the Bank and Trust Companies Law (2020 Revision). The Group is required to have a minimum net worth of CI\$400,000 (US\$500,000) and has a 3 month filing deadline after year end date. The Group's policy is to maintain a strong capital base to sustain future development of the business. The Group has complied with all imposed capital requirements throughout the year, and there were no material changes to the Group's management of capital during the year.

INTERNATIONAL MANAGEMENT SERVICES LTD.

Notes to Consolidated Financial Statements (continued)

December 31, 2020

*(stated in United States dollars)***5. Revenue**

Revenue is measured based on the consideration specified in a contract with a clients and excludes amounts collected on behalf of third parties.

A disaggregation of revenue recognised from contracts with clients by service offering at the reporting date is outlined below.

Disaggregated revenue

	2020	2019
Professional services	8,134,715	9,113,418
Management fee from related party	475,349	464,185
Registered office services	361,616	438,051
	US\$ 8,971,680	10,015,654

Annual fees are fees charged for the services noted above to client companies. This is primarily in the form of fixed fees, with additional fees earned on a time spent basis as charged throughout the year. Revenue is recognised over time as services are rendered or at a point in time when control of the service transfers to the clients.

Contract liabilities

The following table provides information about the contract liabilities from contracts with clients, the figures below constitute the revenue portion of amounts represented as unearned income and payable to clients:

	Contract Liabilities	
	2020	2019
Increases due to payments received that relate to the following years revenue	(658,279)	(640,290)

No information is provided about remaining performance obligations at December 31, 2020 that have original expected duration of one year or less, as allowed by IFRS 15.

INTERNATIONAL MANAGEMENT SERVICES LTD.

Notes to Consolidated Financial Statements (continued)

December 31, 2020

(stated in United States dollars)

6. Accounts receivable

	2020	2019
Gross accounts receivable	974,965	1,231,644
Provision for doubtful accounts	(374,217)	(316,991)
	US\$ 600,748	914,653

Movements in the provision for doubtful accounts during the year are as follows:

	2020	2019
Balance at beginning of year	316,991	162,950
Charge to consolidated statement of comprehensive income	66,854	126,731
Recoveries of doubtful debts	88,121	-
Doubtful debts written off	(97,769)	27,310
	US\$ 374,217	316,991

7. Property, plant and equipment

2020	Office building	Computer equipment	Furniture & equipment	Leasehold improvements	Total
Cost:					
Balance at beginning of year	341,637	393,590	239,816	156,891	1,131,934
Additions	-	3,264	-	-	3,264
Disposals	-	-	-	-	-
Balance at end of year	341,637	396,854	239,816	156,891	1,135,198
Accumulated depreciation:					
Balance at beginning of year	185,889	373,774	181,491	98,219	839,373
Charge for year	3,689	12,096	7,393	4,399	27,577
Balance at end of year	189,578	385,870	188,884	102,618	866,950
Net book value at December 31, 2020 US\$	152,059	10,984	50,932	54,273	268,248

INTERNATIONAL MANAGEMENT SERVICES LTD.

Notes to Consolidated Financial Statements (continued)

December 31, 2020

(stated in United States dollars)

7. Property, plant and equipment (continued)

2019	Office building	Computer equipment	Furniture & equipment	Leasehold improvements	Total
Cost:					
Balance at beginning of year	341,637	402,996	239,816	156,891	1,141,340
Additions	-	-	-	-	-
Disposals	-	(9,406)	-	-	(9,406)
Balance at end of year	341,637	393,590	239,816	156,891	1,131,934
Accumulated depreciation:					
Balance at beginning of year	181,790	358,853	172,710	90,884	804,237
Charge for year	4,099	17,083	8,781	7,335	37,298
Disposals	-	(2,162)	-	-	(2,162)
Balance at end of year	185,889	373,774	181,491	98,219	839,373
Net book value at December 31, 2020 US\$	155,748	19,316	58,325	58,672	292,561

8. Share capital

	2020	2019
Authorised:		
80,000 shares of C1\$1 each	US\$ 96,000	96,000
Issued and fully paid:		
41,667 shares	US\$ 50,000	50,000

INTERNATIONAL MANAGEMENT SERVICES LTD.

Notes to Consolidated Financial Statements (continued)

December 31, 2020

*(stated in United States dollars)***9. Leases**

The Group has a lease for its operating premises, a floor of an office building. The lease is reflected on the consolidated statement of financial position as a right-of-use asset and a lease liability. The Group classifies its right-of-use asset in a consistent manner to its property, plant and equipment (see Note 7).

The lease generally imposes a restriction that, unless there is a contractual right for the Group to sublet the asset to another party, the right-of-use asset can only be used by the Group. Leases may only be cancelled by incurring a substantive termination fee. The Group's current lease has a remaining term of 7 months. Management believe the renewal of the lease under the current terms for a further 36 months is reasonably certain.

The table below describes the nature of the Group's leasing activities recognised on the balance sheet:

Right-of-use asset	2020	2019
Office premises	123,386	334,905
Renewed Office premises	632,975	-
US\$	756,361	334,905

Lease liabilities are presented in the consolidated statement of financial position as follows:

	2020	2019
Less than one year		
- Current lease	127,575	213,578
- Lease renewal	84,779	-
	212,354	213,578
Greater than one year		
- Current lease	-	127,575
- Lease renewal	548,196	-
US\$	548,196	127,575

INTERNATIONAL MANAGEMENT SERVICES LTD.

Notes to Consolidated Financial Statements (continued)

December 31, 2020

*(stated in United States dollars)***10. Defined contribution pension plan**

The Group participates in the Fidelity Pension Plan, a defined contribution pension scheme. The Group is required to match each employee's contribution on a one to one basis up to 5% of the employee's annual salary. During the year ended December 31, 2020, the Group contributed US\$83,391 (2019: US\$113,355).

11. Related party transactions

During the year ended December 31, 2020, the Group earned the following administration and management fees from its affiliated companies:

	2020	2019
Corporate Filing Services Ltd.	US\$ 475,349	464,186
IMS Securities Ltd.	125,414	116,239

Amounts due from related affiliates are as follows:

	2020	2019
Corporate Filing Services Ltd.	US\$ 272,903	93,094

During the year ended December 31, 2020, the Group paid US\$ 4,233,086 (2019: US\$4,464,445) in short-term employment benefits and US\$ 63,289 (2019: US\$88,356) in long-term employment benefits to key management personnel.

12. Contingencies

The Group, in its fiduciary capacity, may be a party to litigation and claims in the normal course of business. In the opinion of the Directors, which is based on the advice of the Group's legal counsel, no contingency provisions are required at 31 December 2020 (2019: Nil).

13. Subsequent events

In preparing these consolidated financial statements, management has evaluated and disclosed all material subsequent events up to March 25, 2021 which is the date that the consolidated financial statements were available to be issued.

インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッドの取締役宛て 独立監査人の報告書

監査意見

我々は、インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド（以下「当社」という。）の添付の連結財務諸表の監査を行った。連結財務諸表は、2020年12月31日現在の連結財政状態計算書ならびに同日をもって終了する事業年度の連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書および連結キャッシュフロー計算書ならびに連結財務諸表に対する注記で構成される。当該連結財務諸表は、本書に記載される会計方針のもとで作成されている。

我々の意見では、添付の連結財務諸表は、すべての重要な点において、国際財務報告基準（以下「IFRS」という。）に従い、2020年12月31日現在の当社の財政状態および同日をもって終了する事業年度の財務実績およびキャッシュフローを適正に表示している。

監査意見を含む本報告書は、全体としての当社の取締役および規制当局への報告目的のためにのみ作成されている。意見を述べるにあたり、我々が事前に同意書で明示的に同意している場合を除き、我々は、その他の目的に対して責任を負わず、また、本報告書を閲覧するその他の者または本報告書を入手する可能性のあるその他の者に対して責任を負うものではない。

意見の基礎

我々は、国際監査基準（以下「ISA」という。）に準拠して監査を実施した。かかる基準に基づく我々の責任は、本報告書の「連結財務諸表の監査における監査人の責任」の項に詳述されている。我々は国際会計士倫理基準審議会（IESBA）職業会計士の倫理規程（以下「IESBA規程」という。）に従い当社から独立した立場にあり、IESBA規程に従いその他の倫理的責任を果たしてきた。我々は、我々が入手した監査証拠が我々の意見の基礎を提供する目的において十分かつ適切であると考えている。

連結財務諸表に対する経営陣およびガバナンスに責任を負う者の責任

経営陣は、IFRSに従い連結財務諸表を作成し適正に表示する責任、および、不正または誤謬による重大な虚偽表示のない連結財務諸表の作成を可能にするために経営陣が必要と考える内部統制に対する責任を有する。

連結財務諸表の作成において、経営陣は当社の継続企業の前提を評価し、適切な場合は継続企業に関する事項を開示し、また、経営陣が当社の清算または営業の停止を企図する場合もしくはそうする以外に現実的に代替案がない場合でない限り継続企業の前提に基づく会計基準を適用する責任がある。

ガバナンスに責任を負う者は、当社の財務報告手順を監督する責任を負う。

連結財務諸表の監査における監査人の責任

我々の目的は、連結財務諸表に全体として不正または誤謬による重大な虚偽表示が含まれていないかについて合理的な保証を得ることであり、我々の意見を記載した監査報告書を発行することである。合理的な保証とは高度な保証のことをいうが、重大な虚偽表示が存在する場合に、ISAに準拠して実施される監査によりかかる虚偽表示が常に発見されることを保証するものではない。虚偽表示は不正または誤謬により生じる可能性があり、当該虚偽表示が単独でまたは全体として当該連結財務諸表の利用者の経済的意思決定に影響を及ぼすと合理的に予想しうる場合に、当該虚偽表示は重大なものと判断される。

ISAに準拠した監査の一環として、我々は職業専門家として判断を下し、監査の実施中に職業専門家としての懐疑心を保持する。我々はまた以下を行う。

- ・ 連結財務諸表における不正または誤謬による重大な虚偽表示に関するリスクの識別および評価、それらのリスクに対応する監査手続の立案および実施、ならびに我々の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠の入手。不正による虚偽表示を見落とすリスクは、不正が共謀、偽造、故意の脱漏、詐称または内部統制の無視に関連しているため、誤謬による虚偽表示を見落とすリスクよりも高い。
- ・ 当社の内部統制の有効性に関する意見を表明する目的ではなく、状況に応じた適切な監査手続を立案するための、監査に関する内部統制の理解。
- ・ 使用された会計方針の適切性ならびに経営陣が行った会計上の見積および関連する開示の合理性の評価。
- ・ 経営陣が継続企業の前提に基づく会計基準を適用することの妥当性ならびに入手した監査証拠に基づき、当社の継続性に重要な疑義を生じさせる事象または状況に関する重大な不確実性が存在するかどうかの判断。重大な不確実性が存在すると我々が判断した場合、我々は監査報告書において、連結財務諸表中の関連する開示について注意喚起を行うことが要求されており、かかる開示が不適切である場合、我々の意見を変更することが要求されている。我々の判断は、監査報告書の日付現在までに入手した監査証拠に基づいている。しかしながら、将来の事象または状況により、当社が継続企業の前提を維持できなくなる可能性がある。
- ・ 開示事項を含む連結財務諸表の全般的な表示、構成および内容ならびに連結財務諸表において前提となる取引および事象が公正表示を達成できる方法により記載されているかどうかの評価。

我々は、とりわけ計画された監査の範囲および時期について、ならびに我々の監査において認められた内部統制の重大な欠陥を含む重要な監査所見について、ガバナンスに責任を負う者に報告する。

グラントソントン
ジョージタウン
グランド・ケイマン
2021年3月25日

INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT

To the Directors of International Management Services Ltd.

Opinion

We have audited the consolidated financial statements of International Management Services Ltd. (the "Company"), which comprise the consolidated statement of financial position as at December 31, 2020, and the related consolidated statements of comprehensive income, changes in shareholders' equity and cash flows for the year then ended, and notes to the consolidated financial statements. These consolidated financial statements have been prepared under the accounting policies set out therein.

In our opinion, the accompanying consolidated financial statements present fairly, in all material respects the financial position of the Company as at December 31, 2020, and its financial performance and its cash flows for the year then ended in accordance with International Financial Reporting Standards ("IFRS").

This report, including the opinion, has been prepared for and only for the Company's Directors as a body and for regulatory filing purposes only. We do not, in giving this opinion, accept or assume responsibility for any other purpose or to any other person to whom this report is

shown or into whose hands it may come save where expressly agreed by our prior consent in writing.

Basis for Opinion

We conducted our audit in accordance with International Standards on Auditing (“ ISA ”). Our responsibilities under those standards are further described in the *Auditor's Responsibilities for the Audit of the Consolidated Financial Statements* section of our report. We are independent of the Company in accordance with the International Ethics Standards Board for Accountants' Code of Ethics for Professional Accountants (“ IESBA Code ”), and we have fulfilled our other ethical responsibilities in accordance with the IESBA Code. We believe that the audit evidence we have obtained is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion.

Responsibilities of Management and Those Charged with Governance for the Consolidated Financial Statements

Management is responsible for the preparation and fair presentation of the consolidated financial statements in accordance with IFRS, and for such internal control as management determines is necessary to enable the preparation of consolidated financial statements that are free from material misstatement, whether due to fraud or error.

In preparing the consolidated financial statements, management is responsible for assessing the Company's ability to continue as a going concern, disclosing, as applicable, matters related to going concern and using the going concern basis of accounting unless management either intends to liquidate the Company or to cease operations, or has no realistic alternative but to do so.

Those charged with governance are responsible for overseeing the Company's financial reporting process.

Auditor's Responsibilities for the Audit of the Consolidated Financial Statements

Our objectives are to obtain reasonable assurance about whether the consolidated financial statements as a whole are free from material misstatement, whether due to fraud or error, and to issue an auditor's report that includes our opinion. Reasonable assurance is a high level of assurance, but is not a guarantee that an audit conducted in accordance with ISA will always detect a material misstatement when it exists. Misstatements can arise from fraud or error and are considered material if, individually or in the aggregate, they could reasonably be expected to influence the economic decisions of users taken on the basis of these consolidated financial statements.

As part of an audit in accordance with ISA, we exercise professional judgment and maintain professional scepticism throughout the audit. We also:

- Identify and assess the risks of material misstatement of the consolidated financial statements, whether due to fraud or error, design and perform audit procedures responsive to those risks, and obtain audit evidence that is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion. The risk of not detecting a material misstatement resulting from fraud is higher than for one resulting from error, as fraud may involve collusion, forgery, intentional omissions, misrepresentations, or the override of internal control.
- Obtain an understanding of internal control relevant to the audit in order to design audit procedures that are appropriate in the circumstances, but not for the purpose of expressing an opinion on the effectiveness of the Company's internal control.

- Evaluate the appropriateness of accounting policies used and the reasonableness of accounting estimates and related disclosures made by management.
- Conclude on the appropriateness of management's use of the going concern basis of accounting and, based on the audit evidence obtained, whether a material uncertainty exists related to events or conditions that may cast significant doubt on the Company's ability to continue as a going concern. If we conclude that a material uncertainty exists, we are required to draw attention in our auditor's report to the related disclosures in the consolidated financial statements or, if such disclosures are inadequate, to modify our opinion. Our conclusions are based on the audit evidence obtained up to the date of our auditor's report. However, future events or conditions may cause the Company to cease to continue as a going concern.
- Evaluate the overall presentation, structure and content of the consolidated financial statements, including the disclosures, and whether the consolidated financial statements represent the underlying transactions and events in a manner that achieves fair presentation.

We communicate with those charged with governance regarding, among other matters, the planned scope and timing of the audit and significant audit findings, including any significant deficiencies in internal control that we identify during our audit.

GrantThornton
George Town,
Grand Cayman
March 25, 2021

（ ）上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は本書提出
代理人が別途保管しております。